

平成 25 年度

あうるすぽっとアートマネジメント研修事業報告書

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)

公益財団法人としま未来文化財団

平成 25 年度

あうるすぽっとアートマネジメント研修事業報告書

## はじめに

今年度のあうるすぽっとアートマネジメント研修はこれまで最長の10か月の研修期間を設け、粘り強く取り組んできた3名の第7期研修生が旅立とうとしています。学業と並行しながら未知の膨大な事業をこなしていく日々は、彼らにとって刺激的ながらも、恐らくそれまでの人生経験の中で最も過酷なものであったのではないのでしょうか。拙さが行動や言動の一つ一つに表れていた研修当初の頃から見違えるように、落ち着きや逞しさを伴った社会へ入る心構えのようなものを身に着けていることに、毎年修了の時期を迎える度に嬉しい驚きを覚えます。

この研修では研修期間の最後に云わば「卒業制作実習」として、研修生自らが企画制作する「インターン生企画」を開催するのですが、今期の企画はそれまでとは全く一線を画した、きわめてユニークなものとなりました。『おんなすぽっと』と称し、豊島区内に在住する出産経験のある女性たちにインタビューした映像作品を製作し、地域の方々を招いて近隣の喫茶店で上映会と意見交換会を行うものでした。経験の無さ故に、制作過程では多少の混乱や遅滞が見られましたが、映像ディレクターの山城大督さんを始め多くの方々の協力を得て実現にこぎ着けたことは、彼らを見守っていた我々スタッフにとっても大きな喜びでした。あうるすぽっとが単に舞台上で作品を上演するだけの施設ではなく、地域の劇場としてアートを介して福祉や教育を考え、近隣の人びとと関わりながらその暮らしの質的向上を目指していることを、研修を通して若い彼らなりに本質的に理解し、企画として具現化に努めたものと高く評価しています。

今すぐには結果は出ないかもしれませんが、研修で得たものを彼らがそれぞれ今後にかし社会へ還元してくれれば、この研修の成果と言えるのではないのでしょうか。

平成25年3月  
あうるすぽっと

## 目次

### I. 教育普及事業

あうるすぽっと伝統芸能講座 第四回 文楽・素浄瑠璃ワークショップ『絵本太功記一尼ヶ崎の段』	6
～近藤良平・コンドルズ、池袋大作戦！！池袋の街で大盆踊り大会～「‘にゅ～盆踊り’」	8
鴨下信一「日本語の学校」	12
公立学校アウトリーチ「コトバの教室」	14
「からだ de コミュニケーション」ダンス・ワークショップ	16
あうるすぽっと舞台技術講座「舞台監督の仕事」	18
「あうるの森」～本濃研太さんと森の住人を作ろう～	20
ホワイエリーディング 劇団昴音楽朗読劇『クリスマス・キャロル』	22
あうるすぽっとバックステージツアー「あうるすぽっとのウラに何がある！？バックステージのぞきま show！！」	24
視覚障害者お出かけ支援講座 劇場実践編	26
あうるすぽっと演芸ライブ「講談と落語のハナシ」「活弁のハナシ」	28
KAZUNORI KUMAGAI PRESENTS 『TAPPIN' INTO TOMORROW』	30
お母さんお父さんのための 絵本読み聞かせワークショップ	34
としまっぷ計画 2013 「コスプレ入門講座」	36
アートマネジメント研修生企画「おんなすぽっと」	38
一多角的ワークショップー「渋さ知らズ de 怖いもの知らズ」	40
豊島区立中央図書館特別展示	44

### II. アートマネジメント研修事業

アートマネジメント研修プログラム	50
研修生レポート	52
編集後記	56

## I . 教育普及事業

## あうるすぽっと伝統芸能講座

# 第四回 文楽・素浄瑠璃ワークショップ『絵本太功記一尼ヶ崎の段』

日本を代表する伝統芸能を気軽に体験できる機会を提供している「文楽・素浄瑠璃ワークショップ」は、今回で4回目の実施となる。文楽の将来を担う若手技芸員による素浄瑠璃の実演とレクチャーを通して、文楽ファンも文楽初心者も文楽・素浄瑠璃の魅力を存分に体験できるプログラムとなっている。このワークショップに連動し、劇場のホワイエでは、フォトグラファー・河原久雄の文楽写真展を開催。文楽の魅力を様々な角度から知る機会を提供した。

## 開催概要

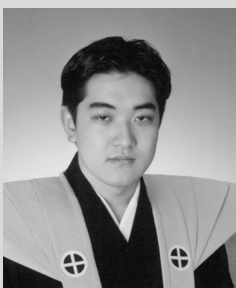
日時	2013年5月28日(火)19:00～
会場	あうるすぽっと
参加費	一般：3,000円／豊島区民割引(在勤・在住)：2,000円／学生：1,500円 豊島区内在住65歳以上の人30組60名招待 ※おとなのアカデミー実施事業
参加者数	249名
講師	竹本相子大夫(人形浄瑠璃文楽座・太夫)、鶴澤清愼(人形浄瑠璃文楽座・三味線)
主催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
企画製作	あうるすぽっと、劇書房
協力	人形浄瑠璃文楽座むつみ会

## 講師プロフィール



### 竹本相子大夫 (たけもと あいこだゆう)

1974年大阪府堺市生まれ。奈良教育大学進学後、箏曲部に籍を置き、文楽と出会う。97年四世竹本相生大夫に入門、文楽協会研究生となる。98年国立文楽劇場『小鍛冶』のツレで初舞台。2000年五世竹本伊達大夫の門下となる。2009年九代竹本綱大夫(現・竹本源大夫)の門下となる。本公演の合間を縫って、文楽の普及や振興のために自主公演やワークショップなどの活動を精力的に行っている。



### 鶴澤清愼 (つるさわ せいき)

1980年大阪府大阪市生まれ。6歳から半太夫節を伝える菊棚月清に地唄を習う。93年鶴澤清治に入門。96年文楽協会研究生となる。99年国立文楽劇場『良弁杉由来・桜宮物狂いの段』のツレで文楽初舞台。2003年より「文楽若手による義太夫節を聴く会」を開催。祖父は文楽三味線の二世鶴澤道八、伯父は現師匠の鶴澤清治、兄は豊竹咲甫大夫という文楽の家系に生まれ、幼少期より文楽三味線弾きを意識した環境の中で育ち、他の道は考えたことがないという。



素浄瑠璃の実演



使用する道具類をスライドで紹介

## 内容

### ・ 技芸員による素浄瑠璃の実演

演目は『絵本太功記一尼ヶ崎の段』。織田信長を滅ぼした明智光秀が羽柴秀吉に討たれるまでの史実をもとに描かれており、十段目である「尼ヶ崎の段」はその二人が対面する。「太十」と呼ばれ、時代物屈指の名作、名場面と言われる人気演目の一つ。

- ・ 文楽座の紹介
- ・ 太夫、三味線による道具の紹介
- ・ 質疑応答
- ・ 参加者による語りの体験

## アンケートより

・ 初めての鑑賞でしたが、思わず太夫の語りに引き込まれ、涙がでてしまいました。とても感動しまして、来て良かったです。ありがとうございました。(50代・女性)

・ ワークショップが楽しかったです。自分で声を出すといかに太夫さんがすごい技術で語っているかがわかります。こういうことができるのも相子大夫さんと清燿さんの組だからかもしれませんね。ありがとうございました。(30代・女性)

・ 普段行くWSより年齢層が高めで少し気が引けましたが、皆さんノリが良く、楽しめました。質問も絶妙で若輩者はただただ感心するばかりでした。素人に芸事を真似させるということは大変心苦しいものがあるかと思います。お二人の寛大な御心に感謝いたします。(10代・男性)

## 研修生のノート

昨年度から文楽が話題に上る機会が多かったこともあってか、200人を超える人が訪れた。日本の伝統芸能の中でも上演を見る機会が得にくい文楽は、馴染みの薄い人が多い。素浄瑠璃の実演だけでなく解説や体験も盛り込んだワークショップを行うことは、文楽の魅力や技芸員の技を知ってもらう良い機会になっただろう。アンケートには、このワークショップをきっかけにして「別の劇場でも上演を観てみたい」と感じたという声もあり、伝統芸能の理解への入口としての役割も大いに果たしていることが分かった。昨年度に引き続き今回も参加者の年齢層は高めだったが、今後は将来の日本文化を担う若い世代にも文楽に親んでもらいたい。宣伝の方法を検討しつつ、充実した内容の講座を継続していくことが望まれる。

## ～近藤良平・コンドルズ 池袋大作戦！！ 池袋の街で大盆踊り大会～

# ‘にゅ～盆踊り’



‘にゅ～盆踊り’は、2008年よりあうるすぽっとと振付家・ダンサーの近藤良平（コンドルズ）が取り組んでいる、地域振興を目的とした事業である。2008年に行った、公演と一体になったワークショップに始まり、翌年からは池袋の街を舞台に‘にゅ～盆踊り’大会として開催してきた。今年は5回目の開催となり、地域における認知度も高まり、老若男女を問わず池袋の夏の風物詩の一つとして広く親しまれるようになった。

今年も‘にゅ～盆踊り’の振り付けを事前にレクチャーするワークショップを、豊島区内7会場で開催した。コンドルズのメンバーから直接に振り付けを習得したワークショップ参加者は大会当日、盆踊りリーダー（通称：しゃ～隊）となって、周囲の人々を盆踊りの輪の中へと引き入れるという一役を担った。



### 開催概要

日程	ワークショップ	2013年7月6(土)～11日(木)
	‘にゅ～盆踊り’大会	2013年7月15日(月・祝)
	『にゅ～縁日ワークショップ』	2013年7月15日(月・祝)
講師	近藤良平、鎌倉道彦、山本光二郎、藤田善宏、安田有吾（以上 コンドルズ）	
主催	豊島区／あうるすぽっと（公益財団法人 としま未来文化財団）	
共催	東京芸術劇場（公益財団法人 東京都歴史文化財団）	
企画制作	あうるすぽっと	
協力	ROCK STAR/東京商工会議所豊島支部/池袋西口商店街連合会/(株)シグマコミュニケーションズ	
特別協力	豊島区立勤労福祉会館/南大塚地域文化創造館/駒込地域文化創造館/巣鴨地域文化創造館 雑司が谷地域文化創造館/千早地域文化創造館/こまのや/駿河屋/甘味屋/鳥元本店/海畑/ACOPE	
助成	平成25年度 文化庁地域発・文化創造発信イニシアチブ	

### 講師プロフィール



#### 近藤良平（こんどう りょうへい）

振付家、ダンサー。コンドルズ主宰。第4回朝日舞台芸術賞寺山修司賞受賞。TVではTBS系列「情熱大陸」出演。NHK教育「からだであそぼ」内「こんどうさんちのたいそう」/「かもしれないたいそう」/「あさだからだ！」内「こんどうさんとたいそう」/NHK総合「サラリーマンNEO」内「サラリーマン体操」に振演出演。舞台では野田秀樹作演出NODA・MAP「パイパー」に振演出演、「THE BEE」に出演。また、NHK連続TV小説「てっぺん」オープニング振付、三池崇史監督映画「ヤッターマン」、宮崎あおい主演「星の王子さま」などの振付も担当。ミュージカル、CM、コンサートなど、ジャンルを問わず振り付け師活動を行う一方、横浜国立大学、立教大学などで非常勤講師としてダンスの指導や、全国各地でワークショップを行っている。



#### コンドルズ（こんどるず）

近藤良平が主宰するコンテンポラリー・ダンスカンパニー。1996年に立ち上げ。メンバーは男性のみで、学ラン姿でダンス・映像・コントなどを展開。海外公演も精力的に行っており、北米、中南米、東南アジア、中華人民共和国、大韓民国など20ヶ国以上で公演。NY公演ではニューヨークタイムズ紙に「日本のモンティパイソン」と絶賛される。バンドプロジェクト・ストライクは日産「NOTE」、カルピス健茶王などのCMにタイアップ。NHK総合「MUSIC JAPAN」などに出演。2009年には人形劇団「コンド～るズ」も始動。



# 盆踊りリーダーワークショップ

大会開催に先がけて、豊島区内の各地域にコンドルズメンバーが講師として出向き‘にゅ～盆踊り’の振り付けを教授した。今年度も、あうるすぽっと・豊島区立勤労福祉会館と5つの地域文化創造館を会場として開催し、計194名がこのワークショップに参加した。

## 開催実績

日時/会場 2013年7月 6日(土) 10:00～12:00 あうるすぽっと 14:00～16:00 駒込地域文化創造館  
7月 7日(日) 10:00～12:00 豊島区立勤労福祉会館 14:00～16:00 千早地域文化創造館  
7月 9日(火) 19:00～21:00 南大塚地域文化創造館  
7月10日(水) 19:00～21:00 雑司ヶ谷地域文化創造館  
7月11日(木) 19:00～21:00 巣鴨地域文化創造館

対 象 年齢・経験不問 ワークショップと7月15日の両日参加できる方  
参加費 一般1,000円/豊島区民(在住/在勤/在学) 500円/豊島区在住の65歳以上 無料  
参加者数 194名  
講 師 近藤良平、鎌倉道彦、山本光二郎、藤田善宏、安田有吾、スズキ拓朗(以上 コンドルズ)

## 内容

- ・2人1組でストレッチ
- ・手拍子をとって曲のリズムを把握する
- ・手拍子に合わせて掛け声をつける
- ・振りを習得する
- ・ペアを作り、2列になって通して踊る
- ・二重円になり、本番を想定して踊る
- ・うちわを用いた自由踊り
- ・崎陽軒のCMソングにあわせた盆踊り(近藤良平氏による振り付け)を踊る
- ・コンドルズバンドプロジェクト・ストライクの曲「シャバラ！」に合わせ、‘にゅ～盆踊り’の振りを応用して踊る
- ・最後にもう一度‘にゅ～盆踊り’を踊る



ワークショップの様子  
撮影：久塚真央

## アンケートより

- ・すごく楽しかったです。誰でも参加できるのがすてきです。ダンスと縁のない生活をしてきましたが、新しい体験ができてうれしいです。また、地域とのつながりができたみたいでうれしいです。
- ・覚えられるのか！？と最初不安になりましたが、やっていくうちに小さい頃習っていた地元の盆踊り少年団を思い出し、楽しくなりました！当日、楽しみます！

## 研修生のノート

性別・年齢、そして地域を問わず、様々な層から参加があった。また過去の参加経験の有無も偏ることなく、全体的に非常にバランスの良い参加状況で‘にゅ～盆踊り’大会が幅広く、さらに持続的な支持を得ていることが窺えた。ワークショップは毎回コンドルズメンバーによる振り付けの教授から始まるが、中盤からは次第に参加者同士で教えあう姿が見られた。踊りを習うというよりも、参加者がそれぞれのスタイルで踊ることを楽しみ、コミュニケーションを深めていた。また、常連の参加者の勢いも相まって、しゃ～隊こそが‘にゅ～盆踊り’の主役であるかと思わせるほどの熱気が溢れていた。本ワークショップの参加者は、大会の盛り上げ役にとどまらず、‘にゅ～盆踊り大会’本来の目的である地域活性化を共に目指し得る、高い意識を持った者であると言えるのではないか。そのため、今後は本ワークショップの参加者が‘にゅ～盆踊り’にとどまらず活躍できる場作りを行っていく必要を感じた。

# 「‘にゅ～盆踊り’大会」



池袋西口公園のステージと、公園中央に設置した檣を中心として、盆踊り大会を行った。例年同様周囲に屋台の出店もあり、それに加えて今年はワークショップなども開催した。多くの人が盆踊りに加わり、西口公園いっばいに六重の円を描いた。

## 開催実績

日 時 2013年7月15日(月・祝) 17:00～20:00  
会 場 池袋西口公園  
来場者数 4,200名  
出 演 コンドルズ、プロジェクト大山、パチあたり、知紫会

### 内容

- ・コンドルズメンバーによる‘にゅ～盆踊り’振付けの伝授
- ・知紫会による伝統的踊りの伝授と披露  
島のブルース、河内おとこ節  
炭坑節、東京音頭、お祭りマンボの伝授と披露
- ・プロジェクト大山によるダンス  
どうにもとまらない
- ・‘にゅ～盆踊り’  
「シャバラ！」(コンドルズバンドプロジェクト・ストライクの曲)に合わせた自由ダンス



左：‘にゅ～盆踊り’会場風景 中央：高野区長挨拶  
右上：コンドルズによる振付けの伝授  
右中央：知紫会による炭坑節の伝授  
右下：プロジェクト大山によるダンス

撮影：久塚真央

## 研修生のノート

いつもの街が一転し、祭の場へと装いを変えた。その祭の場に人々が集い、祭の空気が生まれた。そして祭りの空気に酔いしれた人々が、踊りの円へと吸い込まれていく情景が印象的であった。この祭の空気こそ、この事業を通して創り出すべきものだったのであり、決して出演者やスタッフだけでは成し得ないことであつたと強く感じた。それは、事前ワークショップで習得したはずの‘にゅ～盆踊り’の円にあえて加わず、円の外でうちわを配り続けていたワークショップ参加者や、そのうちわを受け取った多くの人が、この盆踊り大会に当事者として参加したからこそ成し得たものだったのでないか。この、祭に関わる一連の作用が池袋を舞台として行われていることは、この地にとって代えがたい財産になりつつあるのではないかと考える。また大会終盤には、盆踊りの円に加わる人数が増えすぎたためか、特に一番外側の円はかなり人が密集した状態であった。当日参加者が内側の円まで入り込んでゆくケースが少ないことも原因の一つと考えられるが、それも含め今後は、人をいかに集めるかという事だけでなく、集まった人の安全をいかに確保していくかという点にも目を向けるべきであると感じた。

# 『にゅ〜縁日ワークショップ』



今年度は新たな試みとして、大会当日にワークショップを開催した。出店される屋台と並んでテントを設置し、その場で興味を持った人でも気軽に参加できるようにした。円になって踊るといふこと以外でも、この盆踊り大会に参加し、楽しんでもらえる機会を提供した。

## 開催実績

日 時 2013年7月15日(月・祝)  
会 場 池袋西口公園  
参加者数 223名 (内訳:『うちわ〜っしょい!』83名、『金魚』22名、『うちわdeco!』118名)  
講 師 安田有吾 (コンドルズ)、テクノ手芸部

### ・コンドルズ安田有吾の書楽家ワークショップ『うちわ〜っしょい!』

書楽家としても活躍する安田有吾 (コンドルズ) と共にうちわに好きな文字を書き、オリジナルのうちわを制作するワークショップ。参加費:200円



### ・テクノ手芸部の光る『金魚』ワークショップ!

手芸と電子工作という異なる領域を組み合わせた「テクノ手芸」によるワークショップ。LEDを用いた「光る金魚」の制作体験を行った。参加費:500円



### ・にゅ〜盆の『うちわdeco!』

用意された材料を用いて、無料配布された本大会のうちわを自由に装飾してもらおうワークショップ。主に子どもを対象とした。参加費:無料



縁日ワークショップ風景 撮影:久塚真央

## 研修生のノート

縁日ワークショップという名の通り、祭を盛り上げる一役を担えたのではないかと。盆踊りの円に加わるといふこと以外の方法で、祭に参加する場を提供する方法として、このような形のワークショップをこれからも開催すべきであると感じた。また、ワークショップ終了後に、そのスペースにあった机と椅子が休憩所として使用されており撤収がスムーズに行かないという事や、ワークショップに用いた道具類の撤収や受け渡しに少々の混乱があった。今後は、場の仕切り方も含め、より具体的なタイムスケジュールや計画をもって当日に臨む必要があると考える。

鴨下信一

## 日本語の学校

演出家・鴨下信一による、朗読を通して日本語の多様な表現を深く理解するためのワークショップ。「文字に書かれた言葉をどのように声に出して読めば良いか」を基本テーマとし、初回の2007年度から毎年異なる目標を据え、それをもとにテキストを選び出している。今回は、鴨下氏が考える「いまの朗読に欠けているもの」を解決する教材として、樋口一葉、石川啄木の小説や日記、短歌を採用し、日本語の特性や機能性、奥深さについて考えた。

### 開催概要

日 時	2013年10月 5日(土) 11:00~17:00 2013年10月 6日(日) 11:00~17:00 2013年10月12日(土) 11:00~17:00 2013年10月13日(日) 11:00~17:00 2013年10月19日(土) 11:00~17:00 2013年10月20日(日) 11:00~17:00
会 場	あうるすぽっと会議室B
対 象	高校生以上、日本語によるあらゆる表現を目指す人 ワークショップ全日程(6回)に参加できる人
参加費	16,000円
参加者数	30名
講 師	鴨下信一
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
企画製作	あうるすぽっと、劇書房

### 講師プロフィール



#### 鴨下信一(かもした しんいち)

1935年、東京生まれ。1958年、東京大学美学科卒業後、TBSに入社。ドラマ音楽など多くの番組を演出。主な作品に「岸辺のアルバム」「ふぞろいの林檎たち」「高校教師」「渡る世間は鬼ばかり」など。また、舞台の演出家としても評価が高く、特に白石加代子の「百物語」「源氏物語」は朗読を見事な一人芝居に高めた画期的な作品として注目を浴びている。



様々な話を交えて指導する鴨下氏



一人一人に合わせた丁寧な指導が行われた

## 内容

### ・課題の朗読

参加者は、樋口一葉と石川啄木それぞれの「日記」の中から、読みたい箇所をあらかじめ選択。

一葉の小説、啄木の短歌からも一部分を選択し、日記と合わせて朗読。

### ・指導

鴨下氏は一人一人に対して、言葉のアクセントや内容理解における注意、声の使い方や間の取り方について助言をした。朗読における技術面のみならず、文語文の特性や日本語の変化についても解説し、朗読に関し、あらゆるヒントを提示。

鴨下氏は「今回において、朗読者による表現は『日記』と『作品』をどのように切り出し、組み合わせて読むのかというところから始まっている」と言う。それぞれの文章を選んだ理由や背景にも考えをおよぼすことで、参加者たちの読みはより深いものとなっていった。

## アンケートより

・毎回内容の濃いワークショップの開催をありがとうございます。集中力・瞬発力を保ちつつ、作品へ向き合うエネルギーの必要さを改めて思い知る機会となっております。(50代・女性)

・今年が初めての「日本語の学校」への参加でしたが、本当に勉強になりました。朗読そのものご指導だけでなく、先生のお話が本当に多岐に渡っていて、多方面から役に立つ話を聞けたことが大変参考になり、モチベーションも上がりました。(20代・女性)

## 研修生のノート

この「日本語の学校」で文語文を教材としたのは今回が初めてだという。文語文に慣れていない世代は文章を読み説くことに苦戦する傾向にあり、鴨下氏の指導は一葉や啄木の置かれていた時代背景や考えられる心情を説明することに多くの時間を費やしていた。参加者は鴨下氏の指導に惹きつけられ、文語文を読むうえで考えるべきことを着実に学んでいったように見えた。

参加者の中には、過去にこのワークショップへの参加経験のある人が多く、レベルの高い教室となっていた。鴨下氏は「この中には人に教えてもいいレベルの人もいる」と述べたうえで、朗読者自身も作品の一部なのであり、朗読は「うまく聞こえるように読む」のではなく、テキストを深く読み、朗読者の身の丈に合った適切な読みを心がけることが重要であると繰り返し強調した。もともと上手に朗読していた人たちも、根気強く朗読と向き合うことによって、さらに読みのレベルが向上し、驚きの連続であった。参加者にとっては「このような風にも読むこともできる」という発見の場にもなっており、参加者の今後の朗読との向き合い方を教え導く内容であったといえる。

## コトバの教室

東京都教育委員会より言語能力向上推進校に指定された都立文京高校において、本年度言語能力向上のためのプログラムを開催した。日本大学芸術学部教授・熊谷保宏氏をコーディネーターとし、さまざまな角度から言葉にアプローチする「コトバの教室」をテーマに設定した。文京高校一年生全員を対象とし、3回に分けて各回異なる講師がワークショップをおこなった。また、日頃生徒と接している先生方の問題意識を探るとともに、ワークショップの手法を体験してもらうため、生徒へのプログラム実施に先立ち、教職員向けのプログラムを実施した。

### 事業概要

日	程	2013年10月18日(金) 15:40~16:30 (講師：絹川友梨) ※教職員向け 2013年10月30日(水) 13:10~15:00 (講師：絹川友梨) 2013年11月 6日(水) 13:10~15:00 (講師：モーリー・ロバートソン) 2013年11月13日(水) 13:10~15:00 (講師：春原憲一郎)
会 対	場 象	東京都立文京高校 視聴覚室(東京都豊島区巢鴨1-1-5) 東京都立文京高校1年生
参 加 者 数		教職員：15名 生徒：357名
コ ー ディ ネ ー タ ー		熊谷保宏(日本大学芸術学部教授)
講 師		絹川友梨、モーリー・ロバートソン、春原憲一郎
ア シ ス タ ン ト		日本大学芸術学部の学生のみなさん、あうるすぽっとインターン
会 場		都立文京高校視聴覚室
助 成		平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

### 講師プロフィール



#### 絹川友梨 (きぬがわ ゆり)

俳優／インプロバイザー／インプロ・ワークス(株) 代表取締役  
玉川大学教育学部教育学科卒業、オークランド大学院人文科学部演劇科修士課程卒業(主席)。大学時代より演劇を始め、1996年に主演映画「Memory and Desire」(日本未公開)でストックホルム国際映画祭主演女優賞／ニュージーランド・ベスト外国人パフォーマー賞を受賞。1994年に即興演劇(インプロ)に出会い、インプロ・ワークスを設立(2009年法人化)。即興演劇の手法を用い、教育／ビジネス／福祉分野などで、コミュニケーション／プレゼンテーションスキルを指導。国内はもちろんのこと、アメリカ・ヨーロッパ・オセアニアなどでも活動を展開、国際的プロフェッショナル・インプロバイザーである。東京大学特任研究員、青山学院大学客員教授ほか、多数の大学で講師を務める。



#### モーリー・ロバートソン (もーりー・ろばーとそん)

ジャーナリスト／ミュージシャン／作家／DJ  
1963年アメリカ・ニューヨーク生まれ。東京大学中退後米ハーバード大学卒業。専攻は電子音楽。在学中に「よくひとりぼっちだった」(文芸春秋社刊)を出版。ミュージシャンとして音楽アルバム「ストイック」(CBS/Sony出版)などを発表する傍ら、J-WAVE や Block.fm など DJ／ナビゲーターとして番組を持つ。また、既存メディアだけでなく、ネットでの発信に力を入れており、ネットラジオ番組「i-morley」では、政治、社会問題、芸術など多岐に渡った話題を扱う。その他、雑誌、講演会や、NHK WORLD、アル・ジャジーラ等の海外向け番組でもレポーター／コメンテーターとして活躍中。



## 春原憲一郎（はるはら けんいちろう）

特定非営利法人日本語研究所 理事

1954年東京生まれ。上智大学中退後、文楽技芸員、長野県野辺山で野菜作りをした後、ケニアでアフリカ事情を学んだ経験を持つ。

1980年より技術研修生の日本語教育に従事、元（財）海外技術者研修協会理事兼 AOTS 日本語教育センター長。オンライン上の日本語学習・教師研修コースの設計開発、IT エンジニア、アジア人財資金構想による留学生の日本企業就職支援事業、EPA によるインドネシア・フィリピン看護師介護福祉士のための日本語教育コースの企画開発実施にも携わってきた。立教大学大学院特任教授、早稲田大学大学院兼任講師、法政大学兼任講師、日本語教育学会常任理事等歴任。2008年第6回日本語教育学会賞受賞。

### 内容

#### 絹川氏

「伝える」「受け取る」要素を重視した、コミュニケーションについて考える講義と実践。「インプロ」という即興パフォーマンスのメソッドを活用。ペアやグループになり、全身を使って気持ちや物語を伝え合った。



身体を使って、コミュニケーションをする生徒達

#### モーリー氏

ディベートという「意見を交わす」コミュニケーションの実践。「男女平等」をテーマに、モーリー氏が人権や性についての講義を行った後、「来年から、国立大学の学生・教授数を人口の男女比率と同じにするとしたら？」という身近な題材を起点に意見や疑問を交し合った。



各グループがディベートで話し合った内容を、参加者全員に向けて発表

#### 春原氏

広義での「異なる文化」の人々とのコミュニケーションがテーマ。世界各国で日本語教育に携わってきた経験に基づく講義に加え、簡単な挨拶の言葉やジェスチャーのみで意思疎通を図るロールプレイングを実施。使い慣れた言葉や会話を離れた「異文化交流」を体験した。



言葉を必要としない、アイコンタクトや動作を意識したゲームに取り組む

撮影：涌井直志

### 研修生のノート

都立文京高校の山田副校長からの依頼により開始された本事業。「知識の獲得」「特定の技術の習得」に留まらず、実践を通じた体感的な理解に重きを置いたプログラムが揃った。前提となる背景や基本知識についても各講師の専門分野に基づいた講義が行われ、密度の高い内容となった。馴染みの薄い文化や目新しい概念に触れ、真剣な表情で参加する生徒たちの姿が見られた。しかし、二時間弱のワークショップとしてはコンテンツが多く、そのすべてを受け止めるのは難しい生徒もいたようだ。インターン生のアシストを的確にする必要があるが、ワークショップ後にも同様のテーマに触れることができるイベントや書籍などを紹介し、その場限り興味を尽きないように工夫してもよいと思う。いずれにせよ、学校と劇場の新しい関係を築く良い機会であることは間違い無く、継続に意義があると感じる。相互理解はもとより、内部には見えてこない問題や改善案を共有し、事業や教育の場に生かしていくことができれば、あうるすぽっとは今よりもさらに地域に根差した劇場になるだろう。

## からだdeコミュニケーション ダンス・ワークショップ

アートを通じた教育プログラムの普及活動の一つとして、平成20年度より聴覚障害の子どもたちを支援するNPO法人「大塚クラブ」と協力し、ろう学校の生徒たちに向けたワークショップに取り組んでいる。今年度は、国内外で活動する体奏家でありダンス・アーティストでもある新井英夫氏を講師に迎え、ろう学校の子どもたちと一緒に、自然な動きの中からダンスを発見するワークショップを開催。生徒たちと一緒に参加する大人の方々も募集し、最終日には、劇場にて全員で小作品を発表した。

### 開催概要

日 時	2013年11月19日(火) 10:00~10:45 / 11:50~12:35 2013年12月12日(木) 15:30~17:00 2013年12月19日(木) 15:30~17:00 2014年1月9日(木) 15:30~17:00
会 場	都立大塚ろう学校 体育館
対 象	都立大塚ろう学校 小学部1~6年生 大人の参加者：18歳以上で子どもとの表現活動に興味がある方 ※全4回に参加可能な方
参加費	子ども：無料/大人：3000円
参加者数	子ども：24名 大人：6名
講 師	新井英夫 (アシスタント:さとういく、板坂記代子)
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)/豊島区
協 力	都立大塚ろう学校/NPO法人大塚クラブ
企画製作	あうるすぽっと/ミュージズ・カンパニー
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業



銅鑼を鳴らして合図をする



楽しみながら身体を動かした

### 内容

- ・握手ゲーム
- ・やわらかウェーブ
- ・ガイコツダンス
- ・紙ダンス

以上を基本のダンスとして新井氏が提案、大人と子どもが力を合わせ、発表会に向けて発展させていった。

### プロフィール

#### 新井英夫 (あらいひでお)



体奏家・ダンス アーティスト。幼少より落語に親しみ、のち演劇を始める。1987~96年まで身体表現グループ「電気曲馬団」を主宰。まち・人・風景と交わるパフォーマンスをこの頃から継続中。89~98年まで野口体操を創始者野口三千三氏から学ぶ。その「力を抜いたからだ観」から深い影響を受ける。97年より国内外でのダンス活動を独学で開始。他ジャンルアーティストとの国際共同創作も多数。他にも、自身の表現活動と平行し、幼稚園、高校、大学などの教育現場や、市民参加事業での身体ワークショップ指導を継続展開中。



## からだdeコミュニケーション発表会 —どらごんのみみたち—

全4回のワークショップを経て、あうるすぽっとにて発表会を行なった。ワークショップの中で見つけた動きを生かして構成された小作品を、大人と子どもが一緒になって舞台上で披露した。

### 開催概要

日 時	2014年1月13日(月) 16:30~17:00
演 出	新井英夫
アシスタント	さとういく、板坂記代子
出 演	ワークショップ参加者
入 場 料	無料
入 場 者 数	83名
協 力	ミュージズ・カンパニー
主 催	あうるすぽっと (公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
協 力	都立大塚ろう学校、NPO 法人大塚クラブ
企 画 制 作	あうるすぽっと
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業



大人も子どもも一緒に舞台に立った



各々の動きが生かされたダンス



紙を使った独創的なダンス

### アンケートより

- ・WSの過程をかいまみられるような、からだdeコミュニケーションという題がぴったりの舞台でした。子供たちが身体表現と出会ったという事が本当に素敵なことだと思います。様々な場所でこの様な試みがされるとよいと感じます。(30代・女性)
- ・バラバラの動きが一つのまとまりや作品としてできあがっていてとても面白い。(40代・女性)
- ・思うにここにはステージの上の人と客席にいる人とのつながりがありました。(50代・男性)

### 研修生のノート

新井氏のワークショップは、自然な身体の動きや身近な物の動きを取り入れ、身体表現に馴染みの無い子どもたちでも楽しみながら参加できるように工夫がなされていた。はじめのうち、子どもたちは仲の良い友人同士や同じ学年ばかりで集まってしまう傾向があったものの、大人の参加者たちが間に入って促す事で徐々に解れていった。意思疎通に不安を感じていた大人の参加者たちも、子どもたちの見る力や集中力に驚いたようだ。全身を使ってコミュニケーションをし、回を重ねるごとに親密になっていく様子が見られたのが印象的であった。各々が、身体を使って表現することの面白さを実感できるワークショップとなった。

## 『舞台監督の仕事』 ～演出を彩る「特効」に挑戦！～

中・大劇場へ進出するスタッフ、プロを目指す学生におくる、あうるすぽっと舞台技術講座。特殊効果の使用方法のみならず、照明・音響・映像と特殊効果の調整における、予算面・スケジュールのやりくり・舞台装置との関係等について、第一線で活躍する舞台監督・照明・音響の専門スタッフと共に、トーク形式の講義や実際に舞台上で様々なシーンを想定した特殊効果の検証を行うなど、実例を通して特殊効果の実力を知る貴重な機会となった。

### 開催概要

日 程	2013年12月10日(火)、11日(水)
参加費	1日1,000円(2日連続の場合は1,500円)
講師	舞台監督：澁谷壽久、田中伸幸、芳谷研、三上司、矢野森一 特殊効果：糸田正志 照 明：新井富子 音 響：上田好男、渡邊邦男
主催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
企画制作	あうるすぽっと
協力	澁谷壽久、田中伸幸、福澤諭志、藤崎遊、北條孝、三上司、矢野森一、芳谷研 (公財)新国立劇場運営財団技術部、日本舞台音響家協会、(有)戸井田工業 (株)山崎種火製作所、ライティングデザイナーズクラブオブジャパン (株)ライティングカンパニーあかり組、(株)特効
助 成	文化庁 平成25年度地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ (財)地域創造 地域の文化・芸術活動助成研修プログラム

### 講師プロフィール

#### 澁谷 壽久(しぶや としひさ)

83年に劇団「青年座」入団。03年退団後はフリーとして宮田慶子、鴻上尚史、永井愛ら数多くの演出家の作品で舞台監督を務める。

#### 田中 伸幸(たなか のぶゆき)

現在、日本舞台監督協会財務、桜美林大学芸術文化学群非常勤教員。2003年度読売演劇賞優秀スタッフ賞受賞。

#### 芳谷 研(よししたに けん)

現在、桜美林大学芸術文化学群非常勤教員。主な舞台監督作品『祝祭音楽劇 トゥーランドット』『ファウストの悲劇』『シレンとラギ』『かもめ』他。

#### 三上 司(みかみ つかさ)

現在、日本舞台監督協会名誉理事。新国立劇場こけら落とし公演「紙屋町さくらホテル」、こまつぎ/シスカンパニー「ロマンス」他

#### 矢野 森一(やの しんいち)

劇団四季演出部を経てパルコ劇場、こまつ座、松竹、新国立劇場等の舞台監督を務める。第二回倉林誠一郎賞受賞。

#### 糸田 正志(いとだ まさし)

1989年株式会社特効入社。1989年～1991年NHK勤務。CM、オペラ、ミュージカル、バレエ等、ジャンルを問わず数多くの特殊効果を手がける。

#### 新井 富子(あらい とみこ)

音楽コンサート、オペラ、舞台と様々な分野における照明を手掛ける。

#### 上田 好男(うえだ よしお)

現在、新国立劇場技術部職員。日本舞台音響家協会会員。新国立劇場では「屋上庭園/動員挿話」「ヘンリー六世」などの音響プランナーを務める。

#### 渡邊 邦男(わたなべ くにお)

現在、日本舞台音響家協会理事長、新国立劇場音響課長。

## 内容

### 一日目

- ・第一部「火事場シーンの演出」  
SEと照明と特殊効果を複合させる際に効果を倍増させる方法について、実際に火事場のシーンで検証しながら説明を行った。
- ・第二部「雪の表現」  
雪マシーンと紙雪の違い。紙雪の種類や重さによる違い。雪布の穴の大きさによる雪の降り方の違い等を実際に舞台上で体感した。また、照明と雪の見え方の関係についても数パターン of 照明を当てて検証した。

### 二日目

- ・第一部「本火と火薬使用の演出」  
本火のろうそくとLEDろうそくの違いを体感した。また、安全対策の方法について説明を行った。
- ・第二部「銃撃シーンの演出」  
銃撃シーンのデモンストレーションを行い、発火方式、火薬、薬量による違いを検証した。また、音響との連携で効果を倍増させる方法についても検証した。
- ・第三部「パネルディスカッション」  
講師陣、劇場プロデューサーのトーク形式に進めた。最新の特殊効果の現場事情や、過去の事故例と今後の課題等について参加者からの質問も交えながらトークを進めた。



雪カゴの仕組みの説明



銃撃シーンのデモンストレーション



本火ろうそくとLEDろうそくの違い

### アンケートより

- ・今回の様な企画はとても良いと思います。なかなか「舞台監督」さんと触れ合うことがないので、とても良い経験となりました。
- ・照明のワークショップの開催を希望します。どの機材を使うとどういう効果が出るか、何か簡単なセットを組んだ状態で、色々なパターンを試してみるなど。

### 研修生のノート

舞台監督自らがシーン別のデモンストレーションを舞台上で行うなど、本番さながらの演出を交えた充実した講座となった。両日とも、参加者の質問に受け答えをしながら進行を行った。

今年度は、現在、劇場等で働いている若手のスタッフの参加が目立った。特殊効果と音響や照明との関係について徹底的に検証を行い、特殊効果の奥深さを知る機会となった。また、特殊効果を用いるにあたり、舞台監督として行うべき仕事について一から十まで話を聞く中で、舞台監督の仕事の多様さと重要性を改めて感じることが出来たのではないだろうか。パネルディスカッションではベテランと若手の体験談を交えたディスカッションを行い、舞台監督の現状と今後の課題について考えた。より、バリエーションに富んだ舞台づくりのためにも、舞台監督が特殊効果の活用方法を学んでいくことは欠かすことができないだろう。

～本濃研太さんと森の住人を作ろう～

## 『あうるの森』

あうるすぽっとと世田谷パブリックシアターによる、子どもと大人が一緒に楽しむことのできる読み聞かせの企画、「お話の森」の関連事業として開催。ダンボール彫刻家・本濃研太の指導のもと、あうるすぽっと2階ホワイエに、ダンボールで作った樹木や動物を制作・展示し、『あうるの森』と名付けた。また、この『あうるの森』の住人を厚紙にクレヨンで描いて作るワークショップを開催し、たくさんのお子さんによる可愛い作品が出来上がり森に飾りつけた。展示期間中もお絵かきコーナーを設け、自由に住人を追加できるようにした。

### 開催概要

日 程 ワークショップ：2013年12月15日(日) 10:00～12:00  
展示期間：2013年12月13日(金)～23日(月・祝) 10:00～17:00  
会 場 あうるすぽっと2階ホワイエ  
参加費 無料  
参加者数 48名(展示来場者数：734名)  
講 師 本濃研太  
主 催 あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区



ワークショップの様子

### 講師プロフィール



#### 本濃研太 (ほんのう げんた)

1978年北海道生まれ。神奈川県在住。2003年よりダンボール彫刻を中心に活動。古典やグループ展での発表ほか演劇、音楽、ファッション、雑貨とのコラボレーションも行なっている。2012年には宮城県の古民家を再生した「風の沢ミュージアム」で半年間、自身最大規模の展覧会を開催。また、調布市せんがわ劇場にて公演された劇団「風煉ダンス」の「ゲシュタルト崩壊記」の舞台美術を担当。2013年には神奈川県芸術劇場にて公演された“渋さ知らズ大オーケストラ『天幕 渋さ船～龍轍 MANDALA～』”に美術として参加した。

## アンケートより

- ・素敵でした。子どもも楽しそうでした。
- ・夢があって楽しかった。
- ・お絵かきが楽しかった。かざってもらってうれしい。
- ・作った作品がかざってあるので見に来るのが楽しみで通っています。
- ・見ると笑顔になるすてきな展示でした。ありがとうございました。
- ・あうるの森楽しかったです。参加型はいいですね。来てよかった！！
- ・初めて来ました。ダンボールの動物の森よかったです。また参加したいです。



ダンボールで作られた森の動物たちとログハウス



子どもたちの作品が木々に飾られている

## 研修生のノート

このホワイエでの展示とワークショップは今年度初の試みであった。ダンボールで作られた動物や木で飾られたホワイエは、まるで絵本の中にいるような温かい雰囲気を出していた。劇場だけでなく図書館の来館者や、『お話の森』の公演の際には、子どもたちが多く参加してくれ、大変賑やかなものになった。アンケートも満足度の高い結果であり、子どもにとって記憶に残るイベントになったのではないと思う。

## ホワイエリーディング

# 劇団昴音楽朗読劇 『クリスマス・キャロル』

イギリスの作家チャールズ・ディケンズによる名作『クリスマス・キャロル』をホワイエでのリーディング（朗読劇）として開催した。クリスマスソングのピアノ生演奏が会場を包み込み、役者の声が観客を作品の世界へと誘い、クリスマスの雰囲気を皆で分かち合うことの出来るリーディングとなった。また、劇中で出演者が子ども達と「YES・NO」ゲームを行い、観客と出演者が直接触れ合い会話をすることで、より演劇を身近に感じるこの出来る機会となった。

## 開催概要

日 程	2013年12月24日(火) 15:00～ 2013年12月25日(水) 15:00～
会 場	あうるすぽっと2階ホワイエ
入 場 料	無料
来場者数	432名（12月24日：197名、25日：235名）
演 出	河田園子（演劇企画 JOKO）
出 演	西本裕行、島畑洋人、市川奈央子、染谷麻衣、三輪学、加賀谷崇文、高木裕平（以上、劇団昴） 上田享（ピアノ演奏）
主 催	あうるすぽっと（公益財団法人としま未来文化財団）、豊島区
企画製作	演劇企画JOKO
協 力	劇団昴
助 成	平成25年度文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業



『クリスマス・キャロル』のチラシ

## プロフィール

### 劇団昴（げきだんすばる）

劇団昴は文京区千石にあった三百人劇場を本拠地とし、1976年第一回公演アルベール・カミュ作『カリギュラ』から始まり、2006年『八月の鯨』に至るまで、30年間に110本以上の演目を上演。代表作として、『セールスマンの死』、『クリスマス・キャロル』、『アルジャーノンに花束を』、『チャリング・クロス街84番地』等。2006年末の三百人劇場閉館に伴い、「劇団昴一般社団法人」として池袋に事務所を移し、和洋新旧問わず優れた演劇作品の上演を続けている。

### 『クリスマス・キャロル』あらすじ

クリスマスイブの夜、けちで頑固な老人スクルージのもとに亡き友人マーレイの亡霊が訪れる。そして、「過去」、「現在」、「未来」の3人のクリスマスの精霊が現れ、スクルージを時空を超えた不思議な旅へと連れ出す。スクルージが目にしたのは、孤独だった少年時代、貧しくも温かな愛情に溢れる家族、そして、未来の自分の姿…。ある老人が過ごした不思議なクリスマスを通して描かれる、慈しみの物語。



椅子でクリスマスツリーを表現



会場があたたかい雰囲気につつまれていた

### アンケートより

・とても心に染みました。子供達もとても楽しそうに観劇している風景は素晴らしいと思います。『クリスマス・キャロル』を見るのは初めてでしたが、一体感のあるお芝居で、とても心温まるお話だと伝わってきました。初めてがこの朗読でよかったです！！ 本当に心から良いと思いました。来年もやってほしいし、やるなら友達も誘ってまた観たい！ 本当に良かった！ ありがとう！

・毎年楽しみにしています。昴の『クリスマス・キャロル』を拝見すると、ああクリスマスがきたなと感じます。何度観ても、心がほっこり、暖まる作品。大好きです。ぜひこれからも続けていってほしい作品です。今年のスクリーンさんは西本裕行さん。私が初めて昴の『クリスマス・キャロル』をみたときのスクリーンさんで大変なつかしかったです！！

・なによりピアノの生演奏が素敵でした。一年の最後にとっても楽しくぜいたくな時間をいただきありがとうございました。来年も楽しみにしています。

・素晴らしい時間をありがとうございました。皆さんの美しい声、まじめな演技に感動。来年もぜひ観たい。

・物語も小さなゲームもとても素敵で、クリスマスの良い思い出になりました。また来年もあれば観に行きたいです。

### 研修生のノート

小さな子どもを連れてきた家族が多く来場した。劇場では、劇中の途中退出をし難い雰囲気があるが、この公演では出入りが自由であることを事前に告知し、子どもと一緒に観劇しやすくしたため、普段観劇を躊躇していた方にとっても来場しやすいものになっていた。また、公演は、どちらも平日であったが、チラシを区内の小中学校で配布したことが影響してか、多くの方が訪れ、一部の方に窮屈な思いをさせてしまった。今後は、公演の回数を増やすなどして、訪れた人が気持ちよく楽しむことのできるように対策をとる必要があるだろう。

## あうるすぽっとバックステージツアー

# あうるすぽっとのウラに何がある!? バックステージのぞきまShow!!

あうるすぽっとでは、普段の公演では見ることのできない劇場の裏側を知ることができるバックステージツアーを開催している。今回は、マイムユニット・CAVAとバンド・大福によるパフォーマンスを交えて、劇場施設や舞台裏などを案内。CAVAのステージの裏側を見学した後は、参加者達もステージに立ち、マイムパフォーマンスを体験した。

### 開催概要

日 時 2013年12月24日(火) 18:00～  
2013年12月25日(水) 12:30～  
会 場 あうるすぽっと  
参加費 無料  
参加人数 23名  
出 演 CAVA、大福  
主 催 あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区  
企画制作 あうるすぽっと、CAVA  
助 成 平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

### プロフィール

#### CAVA (サバ)

マイムパフォーマンスユニット。黒田高秋、藤代博之、丸山和彰により2003年結成。2008年より細身慎之介、田中優希子が加わり、見た目も性格もデコボコな5人で活動中。マイムをベースにダンス、演劇の要素を融合した無声映画を彷彿とさせるパフォーマンスを東京を拠点に発信し、イギリス、オーストラリア、韓国など世界各国の演劇祭でも公演を行う。劇場公演以外でも、美術館、結婚式などへの出張パフォーマンス、子供から大人までを対象とした身体表現ワークショップの開催、一昨年オープンした日清カップヌードルミュージアムでは発明をテーマにした、線画アニメーションとコラボレートした映像が常設展示されるなど「創る、楽しむ、繋がる」をモットーに活動している。シルク・ド・ソレイユ登録アーティストも在籍。

#### 大福 (だいふく)

熊坂義人により2010年1月結成。11月のブルガリア公演を経て、12月から本格的にソロユニットとなる。リーダーの熊坂義人(cbs)は2009年20月頃までフリーミュージシャンとして活動。忌野清志郎、細野春臣、梅津和時、おおはた雄一、鈴木惣一郎、ハンバートハンバート、BE THE VOICE 等、共演者多数。HONZI (v1)、スパン子(acc)と結成した「福」では2006年にノルウェー公演を成功させる。ASA-CHANG & ブルーハッツのメンバーとしてフジロックフェスティバル2007に出演。2009年10月以降は、フリーで活動中。



## 内容

### ・施設説明

あうるすぽっと3階からスタートし、施設を見学。搬入エレベーターを使って劇場へ下り、ホワイエから客席へ。道すがら、CAVAがパフォーマンスをしながら解説。

### ・パフォーマンス観劇

CAVAと大福によるパントマイム劇「クリスマス・キャロット」を観劇。

### ・舞台裏探検

CAVAによる寸劇を交えた案内に従って、舞台裏と楽屋を見学。

### ・マイム体験

「クリスマス・キャロット」にも登場したマイムパフォーマンスを、CAVAから教わりながら練習。最後には参加者も舞台上でCAVAと共演。



舞台周辺や舞台裏をパフォーマーが説明



舞台裏の設備を実際に使用してみた



CAVAの舞台を鑑賞



パントマイムを練習



参加者も舞台上でCAVAと共演

## アンケートより

- ・パントマイムは観るとやるでは大違い、難しいですね。勉強になりました。かねがねバックステージには興味があったので今日はあちこち拝見できて満足しました。
- ・子供連れで少々不安がありました、とても楽しく参加出来ました。
- ・実際の舞台を見たり、体験したり、楽しい企画でした。館を回るだけではないのですね。びっくりしました。

## 研修生のノート

子どもから大人まで、幅広い年齢の方にご参加頂いた。普段は馴染みのない舞台裏の仕組みを見るだけでなく、自分が見たばかりのパフォーマンスと同じことを舞台上で行う経験が、多くの方にとって興味深いものであったようだ。CAVAのパフォーマンスやバンド・大福の生演奏がツアーの随所に差し挟まれ、終始楽しげな雰囲気が進んだ。このバックステージツアーが、参加者が今後も様々な形で舞台芸術に親しむきっかけを作る場となったように思う。

# 視覚障害者お出かけ支援講座 劇場実践編

豊島区では、2007年より視覚障害者の方が舞台鑑賞を楽しむ為のサポートをするボランティアスタッフの育成を行なってきた。劇場での介助を行なう支援団体・劇場で出会うハートラインにご協力頂き、視覚障害者の方を介助するために必要な講義と実践を行なう講座である。介護業務に興味のある人やフロントスタッフとしてのスキルアップを目指す人にとって、今後活動の幅を広げるきっかけとなると同時に、ボランティア同士の交流や情報共有のためのネットワーク化の支援にも繋がる取り組みとなっている。今年度は、4回に渡りフロントスタッフとしての基本から介助における詳細な注意点までを学び、実際の公演で介助を行なう機会も設けられた。

## 開催概要

日 程	第1回：2013年12月14日(土) 10:00～15:00 第2回：2013年12月21日(土) 15:00～19:00 第3回：2014年 1月11日(土) 13:00～17:00 第4回：2014年01月19日(日) 14:00～19:00
会 場	あうるすぽっと会議室、あうるすぽっと劇場、東池袋駅
講 師	劇場プランナー：門田恭子 劇場内介助コーディネータ：菅谷ひとみ
参加費	2,000円
対 象	4回の講座に出席できる方
参加者数	5名
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
協 力	演劇企画JOKO、劇場で出会うハートライン、セブン・ティアーズ
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

## 内容

### 第1回：劇場フロントスタッフの仕事とは

劇場フロントスタッフの仕事についての講座を受講した後、2階劇場受付にてフロントスタッフミーティングを見学。その後劇場にて『SWIFT!』を観劇。

### 第2回：劇場での介助方法の基本

二人一組で一人がアイマスクを着け、介助する際の流れをロールプレイ。その後、劇場ロビーや客席、お手洗いの案内を練習。

### 第3回：最寄駅から劇場までの介助方法

東池袋改札前通路から劇場への案内を、第2回と同様に二人一組で練習。

### 第4回：公演本番での実践

あうるすぽっとプロデュース公演『Once Upon a Time...あの頃の歌 2nd』で介助実践。

フロントスタッフの基本、ボランティアの心得等を講師から学ぶ（写真右）



介助の基礎を学んだ後、劇場や駅からの道で練習。お手洗いのご案内や、盲導犬が用を足す場合など、細かな事例も（写真下）



### 終了後の感想より

・実際現場に立つ時は、介助方法以外にも、劇場や公演のことをきちんと知っておくことが必要だと感じました。（30代・女性）

・段差の上り下りを教えるのを忘れ、介助する相手の方に「〇〇してほしい」と頼まれてから気づきました。一つのことに一生懸命になると他のことを忘れてしまいがちだと分かりました。（30代・女性）

・声をかけるタイミングに困ることがあり、介助以前のコミュニケーションの課題がありました。介護士の資格取得を目指しているので、地域活動をしていく中で今回の経験を活かしていきたいです。（40代・男性）

### 研修生のノート

受講者一人一人が明確な動機を持ち、今後の活動も考慮して研修に臨んでいた。少人数であったこともあり、随時質問を差し挟みながらの進行となり、活発な講座となっていた。

講座の中で学んだフロントスタッフとしての仕事や介助方法はあくまで基本事項であり、公演の現場で実践するには臨機応変な対応が求められる。講座の最終回では、介助に関する技術的な面で苦戦しつつ、根本となるコミュニケーションや、劇場と公演そのものへの理解の大切さも実感することになったようだ。

介助方法だけでなく、フロントスタッフとしての心構えも学ぶことができるこの講座は、来年度以降も、参加者それぞれの今後に繋がるような経験ができる意義深い講座として継続が望まれる。

## 『講談と落語のハナシ』『活弁のハナシ』

鑑賞機会の少ない日本の話芸を、気軽に楽しめる機会を提供している公演。2013年に真打に昇進した講談師の一龍齋貞橘、2014年に真打に昇進した落語家の柳家小権太、国内外で活躍する活動写真弁士の片岡一郎など、注目の若手が出演。『講談と落語のハナシ』では、それぞれの特徴についてより深く知ることが出来るトークコーナーも設けた。

### 開催概要

日 程	『講談と落語のハナシ』 2014年1月5日(日) 15:00～ 『活弁のハナシ』 2014年1月7日(金) 18:30～
会 場	あうるすぽっと
出 演	『講談と落語のハナシ』 講談：一龍齋貞橘 落語：柳家小権太 『活弁のハナシ』 活動写真弁士：片岡一郎 サイレント映画ピアニスト：柳下美恵
入 場 料	無料
入場者数	『講談と落語のハナシ』 255名 『活弁のハナシ』 138名
主 催	あうるすぽっと（公益財団法人としま未来文化財団）、豊島区
企画制作	あうるすぽっと
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

### プロフィール

#### 『講談と落語のハナシ』

##### 一龍齋 貞橘(いちりゅうさい ていきつ)

1979年東京都生まれ。2000年に一龍齋貞水に入門。2006年10月、二ツ目昇進。2013年春、真打昇進。お江戸日本橋料亭等、都内演芸場に出演。「新鋭講談会」や、毎月開催の「貞橘勉強会」等、活躍著しい注目の若手講談師。講談教室や司会、はとバスの史跡ツアーなどへも活躍の場を拓けている。講談協会所属。

##### 柳家小権太(やなぎや こんた)

1976年東京都生まれ 2002年11月、二ツ目昇進「小権太」と改名。2003年岡本マキ賞受賞。2010年1月に横山ジャズ寄席にて落語とモダンジャズの融合を図るほか、近年は新作落語やチェーホフ「かわいい女」をはじめとしてロシア人作家の作品を翻案・落語化するなど、精力的に芸の幅を広げている。2014年3月「柳家東三樓」真打襲名。落語協会所属。

#### 『活弁のハナシ』

##### 片岡一郎(かたおか いちろう)

活動写真弁士。2002年に澤登翠に入門。日本国内の他に米、独、豪、克、加でも公演。これまで手掛けた無声映画は洋・邦・中・アニメ・記録映画とジャンルを問わず約300作品。活動弁士の他に紙芝居、声優、書生節、文筆でも活動。行定勲監督作品『春の雪』や奥田民夫のパンフレットDVDにも弁士として参加。

##### 柳下美恵(やなした みえ)

サイレント映画ピアニスト。武蔵野音楽大学ピアノ専攻卒業。1995年の山形国際ドキュメンタリー映画祭『光の誕生 リュミエール!』(映画生誕100年記念上映会/朝日新聞社主催)でデビュー後、国内外の映画祭、映画館で活躍。洋画・邦画を問わず全ジャンルの伴奏をこなす。2006年度日本映画ペンクラブ奨励賞受賞。

## 『講談と落語のハナシ』



出演者によるトークコーナー「講談と落語のあれこれ」

### アンケートより

- ・新春から笑え、いい一日でした。真打ちの意味を今日知りました。(40代・女性)
- ・講談に興味があったがなかなか機会がなかった。今日二題聞いてとても楽しかった。(60代・女性)
- ・落語の方が子どもにはわかりやすかったようですが、どちらも笑ったり楽しんでいたようです。ありがとうございました。(40代・女性)
- ・落語、講談を広めようとする二人の熱意に打たれます。多謝多謝!!(60歳以上・男性)

## 『活弁のハナシ』



片岡氏が語りをつけた『断七千断れ雲』の上演

### アンケートより

- ・片岡一郎氏の素晴らしい弁士と柳下美恵氏の美しいピアノで、ステキな一夜を過ごせました。ヤマウチナナコ氏のアニメ弁士は、まだ初々しいが、今後への期待大です。(50代・男性)
- ・無声映画を観るのは初めてで、貴重な体験をさせて頂きました。弁士の方は一人で何役もこなすので、すごいなと思いました。(30代・男性)
- ・元々活弁に興味はあったのですが、なかなか見聴きする機会がなく、今日は本当にラッキーだったと思います。また機会があれば見たいと思いました。(40代・女性)

### 研修生のノート

演芸の鑑賞経験が豊富な来場者もいる一方、演芸に興味はあったものの鑑賞する機会は無かったという人も多く訪れ、好評であった。改めて落語や講談、無声映画を観てみたいという声もあり、演芸の観客層を広げることにも繋がる企画だった。次回参加を望むだけでなく、子ども向けの話や、女性の芸人さん達が集合する企画などを希望する意見もあった。今後、初心者向けではありつつも特色のある企画を実施していくことで、より親しまれるようになるだろう。

## 「TAP the FUTURE in Toshima 2013」

タップダンサー熊谷和徳を講師に迎え、少しでも多くの方にタップを踏む楽しさを知っていただくため、11月と12月に1回ずつ初心者向けのワークショップを実施。タップシューズがなくても気軽に参加できるように、貸しタップシューズを用意し、タップダンスの魅力に触れた。熊谷和徳プレゼンツ『TAPPIN' INTO TOMORROW』に向けた、関連事業として開催した。

### 開催概要

日 程	2013年11月24日(日) 18:00～ 2013年12月15日(日) 18:00～
会 場	あうるすぽっと会議室
対 象	小学4年生以上
参加費	1,000円
参加者数	50名(11月24日:25名、12月15日:25名)
講 師	熊谷和徳、TAPPERS RIOT
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区

### 講師プロフィール



#### 熊谷和徳 (くまがい かずのり)

15歳でタップを始め19歳で渡米。ニューヨークを拠点に活動し、ビレッジボイス紙に「日本のグレゴリー・ハインズ」と評され、米ダンスマガジン紙に「観るべきダンサー25人」に選出される。NYタップフェスティバルには、9年連続で出演し、13年にはNYタイムスに「真のタップアーティスト」と評される。リチャード・ボナ、クリスチャンコット、日野皓正、山下洋輔、上原ひろみ、東京フィルハーモニー交響楽団など数多くのミュージシャンとの共演の他、金森穰、森山開次などのダンサーとも共演するなど、ジャンルを超えたクロスオーバーな活動が話題となる。自身のソロ公演は、青山円形劇場、パルコ劇場、国際フォーラムなどを即日完売するなどタップダンサーとしては異例の観客動員数を誇る。13年より文化庁からの助成を受け、再びNYを拠点に移し世界的な活動に注目を集めている。



#### TAPPERS RIOT (たっぱーず らいおっと)

(村田正樹、谷口翔有子、安達雄基、加藤信行、米澤一平、米澤一輝、猪俣昌也)

タップダンスパフォーマンス集団。熊谷和徳が主宰するタップカンパニーとして、2006年に青山円形劇場にて結成される。日本全国でタップのワークショップを行うなど、タップの楽しさを広め、新たなタップの未来を切り開くため精力的に活動している。また、『RIOT』という言葉には、みんなで足を踏み鳴らすことで素晴らしい未来を創造したいという意味が込められている。

## 内容

- ・自己紹介
- ・ウォーミングアップ  
ストレッチを行い身体をほぐし、音楽にあわせて歩きながら、タップシューズに慣れ親しんだ。
- ・タップ指導  
「ボール&ヒール」の基本的なステップを習った後、講師が踏んだリズムを参加者が真似をし、小さな音、大きな音などタップシューズから響く様々な音色を楽しんだ。
- ・各グループ振付・発表  
5～7人のグループに分かれて、習得したステップを組み合わせて振付を作り、最後に発表を行った。

## アンケートより

- ・とても楽しかったです。けっこう難しいこともやったような気がしましたが、踊っている感じがあってよかったです。
- ・このような体験型のワークショップをもっとやってほしいです。初心者には少し難しく感じられましたが楽しかったです。
- ・すごく楽しくタップをおどれてよかった。
- ・2011年のワークショップ以来、2年ぶりで楽しみにしていました。あっという間の2時間でした。この暖かい雰囲気がとても懐かしかったです。先生方の丁寧で行き届いたご指導で安心して取り組みました。ありがとうございました！！



ウォーミングアップの様子



基本的なステップの練習



グループに分かれての練習



発表の様子

## 研修生のノート

初心者向けのワークショップであったが、基本的なステップからグループごとの振付など盛りだくさんの内容であった。最初は不安そうな表情をしていた参加者も、時間が進むにつれ自然と笑顔が広がり、のびのびと楽しそうに踊る姿が印象的であった。

# 「TAPPIN' INTO TOMORROW」

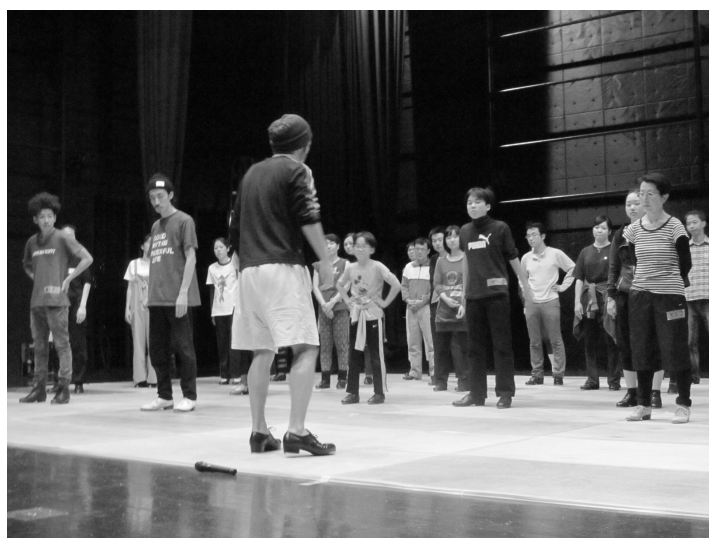
2014年2月1日、2日の公演に向けた、全10回のタップダンスワークショップを開催。kidsクラス、初心者クラス、経験者クラスに分かれて練習した後、合同のワークショップを行った。ダンスの練習だけでなく、ワークショップ参加者の未来への思いを綴った作文の発表を行い、出演者全員で気持ちをひとつにし、本番に臨んだ。

## 開催概要

日 程	2013年12月23日(月) 19:00~21:00 2013年12月29日(日) 13:00~15:00、15:30~17:30 2014年1月5日(日) 13:00~15:00、16:00~18:00、19:00~21:00 2014年1月12日(日) 18:00~19:30、20:00~21:30 2014年1月26日(日) 18:00~19:30、20:00~21:30 2014年1月29日(水) 19:00~21:00 2014年1月30日(木) 19:00~21:00 2014年1月31日(金) 19:00~21:00 2014年2月1日(土) 13:00~21:00(本番19:00開演) 2014年2月2日(日) 13:00~18:00(本番15:00開演)
会 場	あうるすぽっと劇場、会議室
対 象	初心者クラス(高校生以上) 経験者クラス(タップダンスの経験があり、タップシューズが持参できる方) kidsクラス(小学生~中学3年生)
参加費	4,000円
参加者数	76名(初心者クラス:29名、経験者クラス:37名、kidsクラス:10名)
講 師	熊谷和徳、TAPPERS RIOT
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区、KAZ TAP STUDIO
企画製作	あうるすぽっと
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業

## 内容

- ・自己紹介
- ・ウォーミングアップ
- ・振付  
(『シムシャム』『サンバ』『カノン』)
- ・クラス別練習
- ・合同練習
- ・作文の発表
- ・衣装合わせ
- ・劇場でリハーサル



熊谷氏によるレクチャー



## 「TAPPIN' INTO TOMORROW」

熊谷和徳、TAPPERS RIOTとワークショップ参加者76名が一体となり、ワークショップの成果となる公演『TAPPIN' INTO TOMORROW』を2日間にわたって開催した。本番では、講師によるパフォーマンス、参加者の見せ場があり、出演者全員が力強くタップを踏み鳴らした。

### 開催概要

日 程	2014年2月1日(土) 19:00～ 2014年2月2日(日) 15:00～
会 場	あうるすぽっと劇場
入 場 料	一般：3,000円 学生：2,000円 豊島区民割引 2,500円(在住・在勤)
来場者数	522名(1日公演:244名、2日公演:278名)
監 修	熊谷和徳
出 演	熊谷和徳、TAPPERS RIOT、中山貴踏、小林敬宏、ワークショップ参加者
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区、KAZ TAP STUDIO
企画製作	あうるすぽっと
助 成	平成25年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業



リハーサルの様子

### アンケートより

・このワークショップを心から楽しみにしておりました。ワークショップが進むにつれて皆のストーリーを感じられて一人一人が輝いて見えました。年明けからこんな素敵な体験ができて幸せです。

・今回飛び込みで参加したのだけれど、本当に参加してよかったです。タップダンスってこんなに心を動かせるのだと思ってあらためてタップダンスへの興味が深まりました。もっと踊れるようになりたいと思いました。もう一度情熱を思い出させて頂きありがとうございました。

・初心者でも参加できるWSだったので、取り組みやすく、たくさんの方々との新しい出会いがとても刺激的でした。今後も、このような機会が増えると嬉しいです。

・ワークショップの最初は難しくついていけないか心配でしたが、皆さんとのタップはとても楽しく貴重な体験でした。素晴らしいメンバーと時間を共有できてうれしかったです。

・今回であうるすぽっと3回目のワークショップでした。今回も普段の生活で出会うことが出来ない人たちと出会えて楽しかったです。

### 研修生のノート

過去の参加者や初心者向けのワークショップ参加者の多くが、引き続き参加してくれた。このワークショップは、幅広い年代の人々が集い、年齢、性別、ダンス経験に関係なく、一緒にタップを踏み鳴らすことで、ダンスや音楽等を身近に感じることができる。参加者は、タップダンスの魅力、講師の人柄やパワーに惹きつけられ、また日常生活から離れて、練習に打ち込み、プロのダンサーと共にステージに立つことで、充足感を得ていたのではないかと思う。しかし、タップ技術に個人差がある中、短期間の練習で振り付けを覚えることになってしまい、作品づくりの難しさを痛感した。今後は、初心者のために振り付けや構成などを早めに教えるなどの配慮をしていく必要があるのではないだろうか。

# お母さんお父さんのための絵本読み聞かせワークショップ

俳優ともさと衣を講師に招き、お母さんお父さんを対象にした絵本の読み聞かせのワークショップを開催した。子どもの注意を惹きつける読み方のコツをゲームや朗読の練習を通して伝授するだけでなく、豊島区立中央図書館の読書アドバイザーによる、各年齢おススメの絵本や手遊び歌の紹介があり、短い時間であったが充実した内容となった。また、会場内に託児スペースを設けたことから、参加者は安心してワークショップに参加していた。

## 開催概要

日 程	第1回：2014年2月18日(火) 13:00～15:30 0～2歳児対象 第2回：2014年2月19日(水) 13:00～15:30 3～6歳児対象
会 場	あうるすぽっと会議室B
参加費	1,000円(託児込み)
参加者数	12名(第1回：9名、第2回：3名)
対 象	育児中の方
講 師	ともさと衣、豊島区立中央図書館読書アドバイザー
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
企画製作	あうるすぽっと
協 力	豊島区立中央図書館、イベント託児 Mother's



読書アドバイザーによる絵本の紹介

## 講師プロフィール



### ともさと衣 (ともさところも)

1977年(昭和52年)生まれ。福岡県出身。劇団俳優座の研究生を経て、1998年に竹内銃一郎プロデュースユニット「カメレオン会議」のオーディションに合格。その後、舞台を中心に活動。2005年イタリア発信の、劇場に建てた小屋に入り、ベッドに横になり、毛布をかぶりながら物語を聴くという趣向を凝らしたユニークな舞台「親指こぞうブクェッティーノ」の唯一の出演者に抜擢される。現在も各地での公演が続いている。

## 内容

- ・自己紹介
- ・名前呼びゲーム  
(参加者全員で円になり、大きい声、小さい声、高い声、低い声、ウィスパーなどのお題に沿って子どもの愛称を呼び合いながら、移動していく)
- ・読書アドバイザーによる絵本の紹介
- ・テキストをペアになって読み合う
- ・テキストの練習の成果を披露
- ・質疑応答



講師による読み聞かせのレクチャー

## アンケートより

- ・読みきかせで自分があきてしまうのが悩みだったけれど、読み方を変えるなど自分が楽しむ方法を学べて良かった。
- ・参加型のゲームがあり、自分の変化にも気付いて良かったと思います。いろんな方法で読み聞かせしてあげたいと思います。
- ・子どもと一緒に本を楽しく読んでいけそうです。
- ・少人数のワークショップでとてもアットホームでした!!!



名前呼びゲームの様子



熱心に講師の話を聞く参加者



託児の様子

## 研修生のノート

最初のゲームを通して、参加者全員が打ち解け、とてもアットホームな雰囲気のワークショップになった。参加者は、どのように本を読めばいいのかとそれぞれ悩んでいたが、読み手のお母さん・お父さんが楽しく読むことが子どもに伝わるということを理解した上で、物語のキャラクターをイメージしながら、声色を変えて読んだ。皆が楽しそうに参加していた姿が印象的であった。

本ワークショップは、今年初の試みであり、あうるすぽっとと同じライズアリーナビル内の豊島区立中央図書館の協力のもと開催された。あうるすぽっとは、図書館の来館者が劇場へ、また劇場の来場者が図書館に足を運ぶよう、毎月図書館で劇場の上演作品やワークショップ事業に関連した書籍の展示を行なっている。今後も劇場と図書館が同じビルにある特徴を活かし、今回のワークショップのような図書館と連携した事業を考える必要があるだろう。

## コスプレ入門講座

『としまっふ計画』は、公共劇場がアートを介して地域やそこに住む人々との交流を深める試みとして、今年で5回目を迎えるプログラムである。日本大学芸術学部と共同で、毎年様々な角度から豊島区の魅力や問題を探ってきた。

今回焦点を当てたのは、アニメ・漫画好きの女性の聖地とも言われる東池袋「乙女ロード」に軒を連ねるコスプレ専門店と、そこに集まるコスプレイヤー達の文化。演劇集団「中野成樹＋フランケンズ」を生徒役に迎え、公募で集まったコスプレイヤー達がコスプレの「いろは」を指導する入門講座を実施した。「コスプレとは？」から始まる座学に加え、実際のコスプレと撮影も体験。コスプレ文化と演劇文化の交流を通して、サブカルチャースポットとしての池袋の魅力に迫った。

### 開催概要

日 程	第1回：2014年2月28日(金) 15:30～20:00 第2回：2014年3月 7日(金) 15:30～20:00
会 場	HACOSTUDIUM cosset (アニメイトサンシャイン5・6階)
生 徒	石橋志保、北川麗、小泉真希、洪雄大、斉藤淳子、中野成樹、野島真理
記 録	竹田英司、田中佑弥
主 催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区
企 画	中野成樹、外の刺激＋フランケンズ
監 修	熊谷保宏
製 作	あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)、日本大学芸術学部
協 力	ハコスタジアムコセット 池袋本店

### 講師募集概要

- ・コスプレの簡単な授業ができる方
  - ・コスプレ活動歴がある男女(年齢・国籍不詳、グループ可、2～3名/1日)
- 講 師  
空中グループ(アシスタント：唐串、萌瑠)、くうみ、たけるグループ(アシスタント：如月れたす)

### プロフィール

#### 中野成樹 (なかの しげき)

1973年東京生まれ。演出家、中野成樹＋フランケンズ主宰、有明教育芸術短期大学講師。演劇活動をはじめたころより、一途に翻訳劇をとりあげる。既存の海外戯曲を、原作のストーリーを守りつつも自由に脚色し、音楽性あふれる構成、シンプルな美術により上演。その手法を、意識のうえに誤訳でもある「誤意識(ごいやく)」と呼び、翻訳劇の可能性を切りひらく。中世・近代劇を得意としながら、現代劇へも活動の幅をひろげている。近年では小学校から高校の「演劇」の授業の講師も務め、創作の前提となるコミュニケーションの魅力を提示する。2010年、あうるすぽっとプロデュース『長短調(または眺め身近め)』を誤意識・演出。

#### 熊谷保宏 (くまがい やすひろ)

1967年東京生まれ。高校教師などを経て、日本大学芸術学部教授。応用演劇研究、演劇教育関連の講座、ゼミナールを担当。各地で各種の演劇上演やワークショップ、アートプロジェクトを展開。著書に『ワークショップで何ができるか』(共著、芸団協出版)。中野成樹＋フランケンズのメンバーでもある。

## 第1回 『コスプレ入門講座』 レクチャー編

2014年2月28日

### 内容

#### くうみ講師

- ・コスプレ概略
- ・コスプレ活動の実際
- ・コスプレの周辺とこれから

#### 空中講師グループ

- ・コスプレとは？
- ・コスプレイヤー “あるある”
- ・作品紹介

#### たける講師グループ

- ・コスプレの歴史
- ・狭義と広義のコスプレ
- ・初めてのコスプレ
- ・コスプレマナーについて
- ・コスプレの今後

など



コスプレ雑誌を見る生徒役達



講師のコスプレ作品を紹介



教室の様な撮影セットの中での講義  
アシスタントのれたすさん(写真右端)は  
コスプレ姿

## 第2回 『コスプレ入門講座』 実践編

2014年3月7日

### 内容

- ・講師指導のもと、着替えとメイク。  
コスプレ独特のメイク法の指導
- ・ハコスタジオムコセット内のセッ  
トを利用した撮影会
- ・作品世界やキャラクターを表現す  
るための構図やポージング、撮影  
時の注意などの解説

メイクやポージング  
撮影の指導を受ける生徒役達



### 研修生のノート

あえて事前に一切予習をせずに挑んだ生徒役の俳優たちは、熱意溢れる講師の方々のお話に驚きの声を上げながら耳を傾けていた。コスプレを楽しむ側とイベントを運営する側、双方の視点から語られ、コスプレ文化の光と影が浮き彫りとなるレクチャーであった。同好の士以外への積極的な発信をするコスプレイヤーは少なく、偏見を持たれることもあるコスプレ。しかし昨今は「クールジャパン」の一つと捉えられ、メインストリームへと押し出されつつもある。講師の方々には、「自己満足である」と言いきりつつも急速に注目を集め始めていることへの危惧も口にしていた。今回のコスプレと演劇の異文化交流は、新たな価値観を知ると同時に、自らが関わってきた表現を見つめ直す機会にもなり、講師と生徒の双方にとって有意義な時間となったようだ。

## アートマネジメント研修生企画

# 『おんなすぽっと』 ~あの頃の自分へメッセージ~

豊島区が「子育てのしにくい街」とされていることを受け、「お母さん」という視点から豊島区を見つめ直した本企画。豊島区に暮らす11名のお母さん（出産及び育児経験のある女性）に焦点を当て、ビデオレター形式の映像作品を製作・上映を行った。池袋の商店街や公共施設で出演者を募集し、結婚・出産を経験する前の自分に向けたメッセージを録音、それを自分で聞く姿を撮影。全員分を繋げて一つの映像作品として仕上げた。録音・撮影は出演者それぞれが暮らす場所で行い、上映会も池袋の喫茶店で開催。出演者達が自らを見つめ直すだけでなく、豊島区に暮らす「家族」の肖像をあぶり出し、普段とは違う角度から豊島区を考える機会を作った。

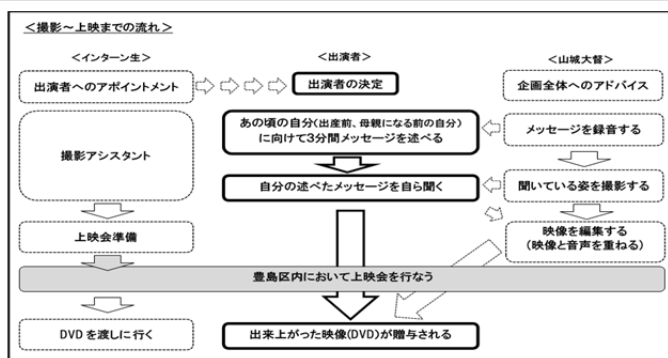
### ワークショップデータ

撮影日程	2014年3月14日(金)、15日(土)、16日(日)
出演対象者	豊島区在住の、出産及び育児経験のある女性
出演者数	11名
映像撮影・技術協力	山城大督
主催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)／豊島区
制作	あうるすぽっとアートマネジメント研修生
助成	平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

### 映像撮影・技術協力者プロフィール

#### 山城大督 (やましろう だいすけ)

美術家・映像ディレクター。1983年大阪生まれ。映像の時間概念を空間やプロジェクトへ展開し、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開。2007年より、アーティスト集団「Nadegada Instant Party(中崎透、山城大督、野田智子)」を結成。他者を紹介し出来事そのものを作品とするプロジェクトを全国各地で発表している。2013年にはアサヒアートスクエアGrow up!! Artist Projectにおいて「東京映像芸術実験室」を行い、年末には3年ぶりの個展となる『VIDERE DECK /アイデア・デッキ』を開催した。



#### 研修生のノート

子育て中から80代まで、幅広い年齢層の方々のお話を聞き、豊島区の歴史から未来まで考える機会となった。母親という存在と家族の関係は、子育てや家事、仕事に至るまで、実に深いものであり、母親の人生を紐解いていくと、そこから家族の肖像があぶり出されてきた。

3日間の撮影を終えると、豊島区の街の見え方が大きく変わっていた。それまで、人の多い無表情な都市とばかり思っていたが、人情の溢れる生活の風景として見えるようになった。母親に焦点を当てることで、どんな場所にも家族の存在があり、それが豊かな街を育てているのだと感じた。



## 上映会開催概要

上映会日程	2014年3月30日(日)
トークゲスト	山城大督(本企画撮影ディレクター)
主催	あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)／豊島区
制作	あうるすぽっとアートマネジメント研修生
協力	池袋乱歩通り商店街、coffee pub mako
上映会場	coffee pub mako
助成	平成25年度文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ

### 上映会内容

1. 本企画の趣旨についての説明
2. ビデオレターの上映
3. 山城大督氏を迎え、本企画についてのトーク
4. 質疑応答

### アンケートより

・妻が出演したので来場しました。あたりまえですが、人にはそれぞれの人生があり、普通にしあわせだと思えることが本当に幸せなんだと感じました。

・女性が「母になること」を通してどんな変化があるのか、「女」として生きることについて客観的にも主観的にも考えさせられました。手法はとてもシンプルですが、一人一人の「お母さん」が奥深い感じがしてとてもおもしろかったです。自分が「女」であることとか、「女」として生きていくこととか「女」ということについてすごく考えさせられました。

・小さな地元で焦点をあてられたこと、とても嬉しく拝見させていただきました。今、世の中が様々に変わっています。大阪のおばちゃん党やカップーギーズなど女性達が頑張っています。“産む”“生み出す力”をもつ女性にスポットを当てた企画であったことも重ねて嬉しく思います。



上映会の様子

### 出演者の言葉

・ビデオを見せていただき、こういう仕上がりになるのなら、もう少しこんなお話をすればよかったのに・・・という反省がいっぱいありますが、たのしかったです。

・自分のビデオはすごくはずかしかったです。でも他の方のビデオはとても感動しました。あたりまえですが、みなさん一人一人の色々な人生があり、おもしろかったです。いい経験ができました。

### 研修生のノート

上映会には学生や社会人、教員など様々な方々にご来場頂いた。ビデオレターを見るなかで、一人一人が自らの母親について考え、感謝する機会となったようだ。しかし、このビデオレターの中で述べられている内容は、どれも美談の様に思われるという意見もあった。確かに、今回収められた映像やメッセージは、どれも理想的なかたちと言えるかもしれない。とはいえ、それぞれの方にそれぞれの人生の苦労があったことはいまでもない。だからこそ、その中の何気ない幸せを、本企画を通して改めて感じ取ることができたのではないかなと思う。

本企画では、劇場を離れ、生活や家族という小さなコミュニティに触れることとなったため、これまでのインターンシップでのコミュニケーションとは違う心遣いが必要となった。事前訪問を通して“お母さん”とそのご家族やご近所の方々とも出会い、家族のことだけでなく豊島区に関する様々な話をした。これまでは舞台芸術という舞台上でのドラマを通して他者との交流について考えてきたが、日常の中にもドラマがあり、そこに多くの交流が生まれることに気が付くことができた。

## 多角的ワークショップ&ライブ

# 『渋さ知らズde怖いもの知らズ』

渋さ知らズオーケストラのメンバーと怖いもの知らズ（ワークショップ参加者）がライブ本番に向けて4日間のワークショップを実施。参加者は、美術班、白塗り班、ゴージャス班、パフォーマンス班、音楽班、プロダクト班の6班に分かれ、講師と参加者が互にアイデアを出し合いながら練習や制作を行い、本番に臨んだ。

### 開催概要

日程	2014年3月20日(木)～23日(日)
会場	あうるすぽっと劇場、会議室
対象	美術班：絵心のある人、舞台美術に興味のある人 ダンス・白塗り班：舞踏、白塗りに興味がある人 ダンス・ゴージャス班：ダンスに興味がある人、ライブ当日に衣装を準備できる人 ダンス・パフォーマンス班：目立ちたい人、役者 音楽班：渋さと一緒に作曲、演奏したい人。ライブ当日に楽器を持参できる人 プロダクト班：スタッフとして渋さの舞台を支えたい人
参加費	1,000円
参加者数	40名（美術班：2名、白塗り班：7名、ゴージャス班：3名、パフォーマンス班：10名、音楽班：17名、プロダクト班：1名）
講師	美術班：青山健一 ダンス・白塗り班：若林淳、長谷川宝子、南加絵 ダンス・ゴージャス班：ペロ ダンス・パフォーマンス班：青山健一、渡部真一、広田清子、板垣あすか 音楽班：不破大輔ほか渋さ知らズメンバー プロダクト班：馬淵仁彦
主催	あうるすぽっと（公益財団法人としま未来文化財団）、豊島区
企画製作	あうるすぽっと、渋さ知らズ

### 講師プロフィール



## 渋さ知らズオーケストラ (しぶさしらずおーけすとら)

1989年、老舗アングラ劇団「発見の会」の劇伴（劇中生音楽）を演奏するため結成。同年にダンサーチームも現れ、多様な表現を確立。海外で高い評価を受けつつ、2001年のフジロックフェスティバルへの参加とライブアルバム「渋旗」の発表で、日本国内での知名度が一気に向上。2006年にはベストアルバム「渋全」にてメジャーデビュー、2012年発のカバーアルバム「渋彩歌謡大全」をリリース。



## ワークショップ

### スケジュール

	3/20 (木)	3/21 (金)	3/22 (土)	3/23 (日)
美術班	オリエンテーション 19:00～21:30	9:00-21:00	9:00-21:00	9:00-21:00
ダンス・白塗り班				
ダンス・ゴージャス班		14:00-21:00	14:00-21:00	14:00-21:00
ダンス・パフォーマンス班				
プロダクト班				
音楽班				

### 内容

#### 美術班

- ・映像作品の創作
- ・公演のモチーフの「鯉」をダンボールで創作
- ・オリジナルTシャツのデザイン
- ・大道具の創作

#### ダンス・白塗り班

- ・ストレッチ
- ・イメージトレーニング
- ・ライブ本番の振付練習
- ・白塗りのレクチャー

#### ダンス・ゴージャス班

- ・ダンスで観客を魅了するコツの伝授
- ・楽曲に合わせたダンス練習
- ・本番の衣裳・髪型・メイクの決定及びその創作

#### ダンス・パフォーマンス班

- ・参加者それぞれの特技を生かしたパフォーマンスの決定
- ・本番で使う衣裳・小道具の創作
- ・楽曲に合わせたダンスの創作・練習

#### プロダクト班

- ・本番までの準備
- ・オリジナルTシャツの作成
- ・ライブ当日の運営

#### 音楽班

- ・各自持ってきた楽器の音出し
- ・チームに分かれてセッション
- ・オリジナルの曲の創作
- ・渋さ知らズの代表的な曲の練習
- ・他の班のパフォーマンスに合わせた楽曲演奏



音楽班による演奏で身体を動かす参加者たち



公演のモチーフの鯉を制作する美術班

## アンケートより

・日々の暮らしに文化的な体験、感動を得ることができます。こうした機会を提供して下さったあうるに感謝します。このような企画を是非続けていただきたい。よろしくお願いします。

・短い日数でしたが、充実した日々でした。今後の活動にも役立てていきたいと思います。ありがとうございました！

・シゲキが強すぎてサイコーです。



曲の創作をする音楽班



ダンスの練習をするパフォーマンス班



振付を確認する白塗り班



大道具を制作する美術班



オリジナルTシャツを制作するプロダクト班



劇場でリハーサルをする音楽班



音楽班の音に合わせて踊るゴージャス班

## 渋さ知らズ大オーケストラ公演『池袋大作戦!!』

ワークショップ最終日、渋さ知らズオーケストラとワークショップ参加者が4日間のワークショップの成果となるライブを披露した。ライブ前半は、渋さ知らズオーケストラとワークショップ参加者によるもので、後半は渋さ知らズオーケストラとゲストによるものであった。各班ごとにそれぞれ見せ場があり、舞台上でのマイクパフォーマンス、映像とのコラボレーションなど多様性に富んだ内容であった。ライブの最後には、客席にワークショップ生が登場し、客席と舞台が一体となり、とても賑やかな公演になった。

### 開催概要

日 程 2014年3月23日(日) 16:30～20:00  
会 場 あうるすぽっと劇場  
入 場 料 一般：3,000円  
学生：2,000円  
豊島区民割引 2,500円(在住・在勤)  
来場者数 206名  
出 演 渋さ知らズオーケストラ、ワークショップ参加者  
ゲスト：玉井夕海、中山貴踏  
主 催 あうるすぽっと(公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区  
企画製作 あうるすぽっと、渋さ知らズ



華やかな衣装を着たゴージャス班



鯉を持って踊るパフォーマンス班

### 研修生のノート

渋さ知らズのワークショップは毎年恒例になっているが、常連の参加者だけでなく、新規の参加者も多かった。参加する理由は様々であったが、ワークショップ参加者があるままの自分を表現しようと、表現と向き合っている熱心な姿がとても印象に残った。今年度は新たにプロダクト班を設け、ライブ当日の運営とワークショップ生の名前と公演のモチーフである「鯉」を描いたオリジナル公演Tシャツを作成した。ワークショップ参加者が運営側にも参加することで、より一層アーティストと共にステージを作り上げているという実感が増し、ライブの成功に繋がったのではないかと思います。

# 豊島区立中央図書館特別展示

あうるすぽっとでは、2009年度より、同じライズアリーナビルにある豊島区立中央図書館での特別展示を行なってきた。

この展示は、あうるすぽっとでの上演作品やワークショップに関連した書籍を月毎に特集している。来館者に対してあうるすぽっとの事業を紹介するとともに、新たな本との出会いや、文化・芸術について知る機会を提供するものとなっている。

## みんなで踊る ー群舞ー

7月

関連事業：近藤良平・コンドルズ池袋大作戦！！ あうるすぽっと‘にゅ〜盆踊り’大会



あうるすぽっとのワークショップ事業として開催される‘にゅ〜盆踊り’に合わせて行った企画。盆踊りと同じように大勢の人で踊る「群舞」をテーマとした図書とCDを特集した。馴染みの薄い世界の舞踏から身近なフォークダンスやラジオ体操まで、幅広く選書した。平均貸出回数は前年度のおよそ4倍となり、様々な人が興味を持てる多様な踊りについて取り上げたことが効果的だったと考えられる。盆踊りの提灯をイメージした展示デザインが目を引いた結果でもあるだろう。

## みるということ

8月

関連事業：あうるすぽっとプロデュース公演『鑑賞者』



あうるすぽっとプロデュース公演『鑑賞者』に連動させた企画。小野寺修二氏が3年間に及ぶろう者とのワークショップを経て創り上げたこの作品のテーマ「言葉ではなく見てとること」に関連し、「みる」ということに焦点を当てた。堅いテーマにも関わらず前年度の7倍に近い平均貸出回数となったのは、絵画や映像、身体表現といった直接視覚に訴える分野だけでなく、哲学や心理学といった方面からもアプローチし、多様な関心に応える工夫をしたことによると思われる。

## 親子で楽しむ夢見る絵本

8月

関連事業：アートネットワーク・ジャパン・プロデュース 子どもに見せたい舞台 vol.7『星の王子様』



「としまアート夏祭り 2013」のメインプロジェクトとしてあうるすぽっとで上演される『星の王子さま』を特集した企画。作者であるサン＝テグジュペリの著作を中心に、夢のある世界を描いた絵本を選書した。また、関連事業として行われるレクチャー『『星の王子さま』の魅力～小惑星の旅で見つけたもの～』を踏まえ、人工衛星や惑星探査機についての図書も取り上げ、年齢を問わず好奇心を刺激する展示を心掛けた。作品自体の魅力に加え、手に取りやすい配置で、多くの人の興味を引く展示とできた。

## 記録と記憶をめぐる本

9月

関連事業：あうるすぽっとタイアップ公演 遊園地再生事業団『夏の終わりの妹』



あうるすぽっとタイアップ公演として上演する舞台『夏の終わりの妹』と連動させた企画。この舞台は、知りたい情報を得る為に質問できる「インタビュー資格」の取得を目指す主人公が描かれており、それに関連し、インタビューの技法や戦争、震災などの体験記についての本を選書した。また、作・演出の宮沢章夫の著作や、モチーフとなった映画『夏の妹』の監督である大島渚の関連書も紹介。重いテーマではあったものの、災害文学が多く借りられており、戦争や災害の記録への関心は高かった。

## 音楽と表現者たち

10月

関連事業：あうるすぽっとプロデュース スガダイロー五夜公演『瞬か』



あうるすぽっとプロデュース スガダイロー五夜公演『瞬か』に連動させた企画。フリージャズピアニストのスガダイロー氏が身体表現家達と即興パフォーマンスを行なう公演に関連づけ、即興演奏やジャズピアノを中心に、表現技法や楽器について扱う本を集めた。出演者の著作も紹介し、表現をする人と楽しむ人の双方が興味を抱く展示となるような内容の展示とした。人々が持つ、芸術に対する潜在的な興味を刺激し、音楽と身体表現への関心を引き出すような展示となった。

## 現代イブセン演劇祭

11月

関連事業：あうるすぽっとタイアップ公演 第2回東京ミドルシアターフェスティバル『現代イブセン演劇祭』



あうるすぽっとタイアップ公演として上演される『現代イブセン演劇祭』に連動させた企画。イブセンの戯曲作品と、彼の出身国であるノルウェー、そして演劇祭参加劇団であるベルギー、ルーマニアといった国々の文化も紹介した。演劇に限らず、伝承や物語なども取り上げ、文化背景を様々な角度から知ることの出来る展示とした。平均貸出回数の増加は3倍程度にとどまり、イブセンについての説明書きなどが不十分だったという反省点はあるが、戯曲作品以外にも借りられており、利用者の関心の幅は広げることによって役立つ内容となったようだ。

## みんなで楽しむクリスマス

12月

関連事業：あうるすぽっとプロデュース公演『スウィフト!』『お話の森』  
ホワイエリーディング 劇団昴音楽朗読劇『クリスマス・キャロル』



12月に行われた『お話の森』とクリスマス・キャロル』を中心に連動させた企画。クリスマスやサンタクロースにまつわる物語、文化史、料理や手芸の本などを取り上げた。クリスマスの楽しさを表現した飾り付けを施し、子ども達への読み聞かせに適した絵本や紙芝居を中心にしつつ、中高生向けの物語、大人の興味も引く内容の本、実用的な本も揃えた。貸出回数の増加だけでなく、前年度は1度も借りられなかった本も複数回借りられており、興味や目的によって選べるような選書をした効果があった。

## 懐かしい・新しい！ あなたはどっち？

1月

関連事業：あうるすぽっと演芸ライブ『講談と落語のハナシ』『活弁のハナシ』  
おとなのヴィンテージミュージック『Once Upon a Time...あの頃の歌 2nd』『和田誠ポスター展』



『Once Upon a Time...あの頃の歌』『講談と落語のハナシ』『活弁のハナシ』に連動させた企画。伝統芸能をはじめ、歌謡曲、映画、流行などのテーマを取り上げ、世代によって異なった感じ方の出来る本の特集とした。また、『和田誠ポスター展』も開催されたため、和田誠の著作や関連書籍も展示。親しみやすい内容や特徴の強い本を選書した。休館期間があったにも関わらず平均貸出数は前年度の5倍以上となった。幅広い年代の人に感性に刺激を与え、懐かしさや新しさを見出すことのできる展示となった。

## シェイクスピア生誕450年！ シェイクスピアとエリザベス朝

2月

関連事業：あうるすぽっとタイアップ公演 文学座『尺には尺を』『お気に召すまま』



あうるすぽっとタイアップ公演として上演される、文学座の『尺には尺を』『お気に召すまま』と連動した企画。2014年はシェイクスピア生誕450年にあたり、この企画でもシェイクスピアと彼が生きた時代についての展示を行なった。作品がうまれた背景も含めて紹介し、多角的な捉え方をする助けとなる内容を目指した。シェイクスピア作品の翻訳・研究で有名な、元豊島区芸術顧問である小田島雄志先生の著作も多く紹介。シェイクスピアに触れる良いきっかけを作ることが出来た。

## 宮沢賢治の世界

3月

関連事業：小池博史ブリッジプロジェクト共同制作 小池博史 MEETS 宮沢賢治シリーズ第2弾『銀河鉄道』



あうるすぽっとタイアップ公演『銀河鉄道』に関連し、モチーフとなった『銀河鉄道の夜』をはじめとした宮沢賢治の作品を特集した企画。童話の絵本や紙芝居から社会問題に切り込んだ作品まで、賢治の手がけた様々な作品に触れることができるように心がけた。他の作家が『銀河鉄道の夜』からインスピレーションを受けた作品や、賢治論の研究書、エッセイも併せて紹介し、賢治の作品を読んだことのない人も関心を持ち、広い作品世界を存分に楽しめることができるような展示とした。

## Ⅱ.アートマネジメント研修事業



---

# アートマネジメント研修プログラム

---

2007年の開館以来、アートマネジメント分野でのキャリアを志す人を対象として実施している長期インターンシッププログラム。舞台芸術分野の第一線で活躍するクリエイターや劇場の運営スタッフと共に、現代演劇・舞踊を中心とした舞台芸術の創造及び公共劇場が担うべき教育事業に関わりながら、劇場の事業制作・管理運営について学ぶ。劇場運営や各事業の現場で活用するための「文化政策についての知識」の特別講習も開催される。それらの学びを踏まえた上で自主企画を立ち上げ、事業報告書の制作をもって修了となる。

## 開催データ

---

期間/場所	2013年6月2日(日)～2014年3月25日(火)	あうるすぽっと他
対 象	舞台芸術分野や文化行政分野でのキャリアを志す東京都内・近県の大学生、大学院生	
研修形態	原則として、週2～4日程度。講習、公演日など夜間研修有	
主な業務	1) 舞台制作助手業務 2) 教育普及プログラム制作業務 3) 広報宣伝業務 4) 劇場管理運営業務	
参加費	50,000円	
研修生数	6名(3名辞退)	
主 催	あうるすぽっと (公益財団法人としま未来文化財団)、豊島区	
監 修	片山泰輔 (静岡文化芸術大学文化政策学部教授)	

## 講師プロフィール

---



### 片山泰輔 (かたやま たいすけ)

慶應義塾大学経済学部卒。東京大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得満期退学。三和総合研究所主任研究員等を経て現職。日本文化政策学会副会長、日本アートマネジメント学会関東部会長、一般社団法人浜松創造都市協議会理、公益財団法人東京交響楽団評議員。専門は財政・公共経済、芸術文化政策。1995年、芸術支援の経済学的根拠に関する研究で日本経済政策学会大会50周年記念学会賞(奨励賞)受賞。2007年、著書『アメリカの芸術文化政策』で日本公共政策学会学会賞(著作賞)受賞。

## 特別講習

---

---

アートマネジメント研修では、研修生を対象とした全8回の特別講習が行われた。文化政策の在り方や公共劇場の使命について様々な事例を交えながら学び、疑問や意見が交わされた。実際に現場の仕事に携わる経験をする中でこのような講習の機会を得ることにより、劇場の管理運営や文化政策について幅広い理解が可能となった。

---

### 第1回 日本の文化政策の歴史と特徴 2013年7月1日

---

講師 片山泰輔

内容 戦前から現代まで、日本の文化政策の歴史と特徴、重要な出来事や課題などについて

### 第2回 財政と芸術文化/税金を使う根拠 10月28日

---

講師 片山泰輔

内容 経済学(財政学)における政府の役割と、芸術文化政策における公的資金の役割について

### 第3回 文化施設と指定管理者制度 12月16日

---

講師 片山泰輔

内容 文化施設の指定管理者制度、劇場法の概要と課題について

### 第4回 アートマネジメントの基礎 2014年1月25日

---

講師 片山泰輔

内容 アートマネジメントの定義、非営利経営の特徴、補助金制度について

### 第5回 豊島区の文化政策 2月9日

---

講師 片山泰輔・樋口英一郎(豊島区文化デザイン課文化施策担当係長)

内容 豊島区の文化政策の展開とそのポイントについて

### 第6回 企業メセナ 2月11日

---

講師 若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/元企業メセナ協議会)

内容 日本の企業メセナの特徴、達成してきたことと今後の課題について

### 第7回 演劇のマネジメント 2月11日

---

講師 米屋尚子(社団法人 日本芸能実演家団体協議会)

内容 日本の演劇界における、実演家達のマネジメントについて

## 研修生レポート

### 劇場で出会ったもの

「演劇を仕事にしたい」という憧れだけでインターンシップへの参加を決め、別の業界での就職活動をやめた。漠然と演劇業界への足掛かりを期待していた当時の自分は、非常に甘かったと思う。劇場で最初に出会ったのは、「不甲斐ない自分」。学生劇団に所属していたため、演劇や劇場は馴染み深い場所であり、すぐに慣れるだろうと考えていたのが間違いだったのだろう。当然ながら、学生劇団の団員と公共劇場という組織の一員では、仕事の範囲の広さ・責任の重さが全く異なる。インターンに任される日々の仕事は地味なものも多いが、だからといって軽んじられるわけではない。本番ともなれば体力も必要不可欠だ。目の前のことに気を取られて右往左往するうちに、必要な情報共有を怠ったり、優先順位を誤ったり、何度も失敗をした。叱責を恐れて萎縮するようになると、「怒られないように」ばかりが先立ち、自分が行っている作業の意味も、インターンに来た目的も深く考えられなくなっていた。

しかし、同時に「目を覚ましてくれる存在」にも出会っていた。自らの至らなさに打ちひしがれる毎日だったからこそかもしれない。例えば、初めての主催事業「にゅ〜盆踊り」当日に感じた人々の熱量。大塚ろう学校でのワークショップで見た楽しそうな子供たちの姿。「視覚障害者お出かけ支援講座」の参加者の方々が持つ問題意識やこれからの目標。本番を乗り越える度に「これを目指して頑張っていた」「こうした出会いを作るための事業だった」と気付かされた。

一進一退を繰り返す日々の終わりは、インターンシップも終盤に差し掛かった11月頃に訪れる。私がようやく「仕事への足掛かり」を得ることになったのは、「としまっぷ計画」の準備作業だった。今年のとしまっぷ計画では、アニメ・マンガ好きの女性の聖地とも言われる“乙女ロード”に注目し、コスプレ文化と演劇文化の交流を通して池袋の魅力に迫る内容だ。あまり詳しくない分野だったため、実施会場を探すために乙女ロードを探索し、そこに集い、働く人々と話すことから始まった。コスプレと演劇の意外な共通点に驚き、外側から見た「演劇」や「劇場」がどんなものなのか教えられた。新しい試みだったこともあり、指示に従うだけでは企画が進まない。自分で下調べをし、実際に足を運び、そこで知ったことをもとに関係者に提案し、フィードバックを受けて新たに調べ……という作業を繰り返すうちに、演劇に関わることのできるフィールドの広さを再認識すると同時に、そのプロセス自体の面白さに夢中になっていった。

そうして出た結論は、既に確立されている演劇のあり方や、現在存在している演劇に関わる仕事にこだわる必要はない、ということだ。むしろ、今はまだ眠っている演劇の可能性を掘り起こすような仕事がしたい、そう考えるようになった。

卒業後に就職した仕事は、直接的に演劇には関係しないライターだ。しかし、取材対象自身も気付けていない魅力を洗い出し、届けるべき人に届くように企画を練るという作業は、「としまっぷ計画」はもちろん、インターンシップで学んで来たことが生かせるはずだ。少し離れたところから演劇や劇場のことを考えながら、いつかまた演劇に挑むことを目指し、見識を広め、知識と技術を身に付けたい。このような「確かな目標」に出会えたことが、インターンシップを終えた最大の収穫だ。10ヶ月間、厳しくも温かくご指導くださったあうるすぽっとの職員・関係者の皆様、片山先生に、心よりお礼を申し上げたいと思う。

青木みさき（あおき みさき）

首都大学東京 都市教養学部 都市教養学科 人文・社会系 国際文化コース 表象言語論分野4年

## 羊飼いになりたくて・・・

様々な方々との出会い、これこそが、あうるすぽっとでの10ヶ月のインターンシップが私に与えてくれた最大の財産である。

現場では、舞台に立つダンサーや俳優のみならず、舞台監督、制作スタッフ、技術スタッフ等々、舞台芸術を創り上げていくために何人もの人々の知恵や技術、アイデアが注ぎ込まれていた。個々人の資質や能力が作品に影響を与えることは言うまでもないが、そこに関わる様々な人々を繋ぐネットワーク作りは特に重要なものであった。このネットワーク作りをいかにして行っていくか、それこそが制作スタッフに課せられた最大の使命なのだと思う。

現場には、仕込みから公演本番、そしてバラシまで、実に様々な人々が入り出す。その中で、制作スタッフは毎日1番最初に現場に入り、1番最後に現場を出ることが習わしだった。お出迎えからお見送り、ケータリング、チラシの折り込みまで、1日のうちにこなす仕事は実に多種多様であった。何回か現場に入るうちに、だいたいの動きの流れを掴むことは出来た。この動きの流れさえ掴んでしまえば、1日の仕事をこなすのはさほど大変なものではなかった。

しかし、ルーチン作業がもたらすのは、その場限りの表面的な細かい繋がりでしかなかった。現場をより温かく、より楽しいものにしていくためには、制作スタッフの他者に対する心遣いが欠かせないことをひしひしと感じた。それは、特に巧みなテクニックを要するものではなく、例えば、現場に入って来る方への挨拶ひとつをとっても、どれだけ気持ちの良い挨拶が出来るか、たったそれだけの心遣いで現場の雰囲気、さらには舞台に立つ人々の心を少しでも、より心地良いものにすることが出来る。制作スタッフとしての心遣いを大切にすることが、より素敵なネットワークを生み出していくのだ。

私には実現させたい目標がある。それは、農業をしながら子ども達の保育をし、子ども達と共に新しい日本の価値を創造すること。そして、羊飼いになることだ。残念ながら、あうるすぽっとでは羊に会うことは出来なかったが、本当に素敵な様々な方々に出会うことが出来た。

インターネットを介し、容易にあらゆる人々との情報共有が可能な今日において、効率に囚われた消費一辺倒の生活に陥ることなく、誰もが生産者、創造者としての生活を営んでいくためにも、直接言葉を交わすネットワーク作りを大切にすることは、たとえ世界中のどこで何をするにしても欠かせないことだと感じた。そして、このネットワークをより素敵なものにするためにも、私自身の態度や表情、言葉に心遣いをもつことが欠かせない。そのことを、実践を通して実感させてくれたあうるすぽっとでのインターンシップは実に貴重な経験となった。

文末ながら、ご多忙中にも関わらず、多大なるご理解ご協力をいただいた全ての方々に、感謝の言葉を述べさせていただきます。

田中暢人 (たなか のぶひと)

文教大学 教育学部 学校教育課程 美術専修4年

## 研修を終えて

大学で演劇やアートマネジメントを勉強し、長くダンスに携わっていた私は、劇場や現場のことをもっと知りたいと思い、このインターンシップに応募した。それまでダンス公演の制作や出演、展示会の運営のアルバイトの経験はあったものの、公共劇場での業務ははじめてのことばかりであった。電話対応から折込チラシの依頼、参加者リストの整理、チラシ作成、ワークショップの運営や記録、ケータリングの準備など業務は複雑多岐であり、その大半が地味で地道なものであった。その中でも苦労したのが、広報である。宣伝用の文章やチラシのデザインを作るのは、簡単な作業のように思えるが、企画の本質を捉え、対象を絞り、言葉を選び、相手に伝わる形にすること、さらに、必要としている人に届け、集客に繋げるのは大変長い道のりであった。他の公演のチラシを参考にしながら、文字の大きさや配置を考え、相手の心を捉えるにはどうすればいいのか何度も行き詰まったものである。インターンという身分であったが、あうるすぽっとの一員であることにかわりはなく、自分が作成したチラシや短い宣伝文章が集客に結びつくという責任の重さを痛感し、同時にやりがいも感じた。

また、漠然と文化芸術に携わる仕事がしたいと考えていた私にとって、このインターンシップは社会人になるということ、文化芸術と向き合うことを常に考えさせられ、自分を見つめ直す機会にもなった。世界で活躍するアーティストと現場を共にし、作品が生まれる過程に立ち会えたこと、様々な立場からの意見や、ワークショップの参加者、地元の方の声を聞くことができたのは刺激的であり、大学生活とは別の充実した経験をすることができた。就職活動を前に、公演やワークショップを通してこれらの多くの人と出会い、様々な生き方や仕事を知り、自分の将来を具体的に考えるようになったこの研修は、これからの私にとって貴重な財産になることを確信している。

次から次へとやらなければならないことがあり、様々な事業に追われていた10ヶ月の研修は長いようであつという間に終わってしまった。振り返ると、あの時もっとできたのではないかと後悔する点も多くあるが、この研修で学んだこと、身につけたことを今後に活かし、少しでも社会に還元できるように日々精進していきたいと思う。今回、研修の機会を与えて下さり、ご指導を通して多くの示唆を下さった職員の皆様、片山先生、そしてアーティストの方々をはじめとする研修で出会った全ての人に、改めて感謝をしたいと思う。

田宮彩名（たみや あやな）

慶應義塾大学 文学部 人文社会学科 美学美術史学専攻3年

## 編集後記

2013年度がはじまる直前の2013年3月末に文化庁が「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（劇場法）」にもとづく「指針」を発表しました。そこでは、条文で規定された劇場、音楽堂の公益性があらためて確認されるとともに、こうした劇場、音楽堂等がその役割を果たしていくための人材育成の重要性が記されています。同時に、そのための様々な方策が記されていますが、劇場自身も育成の主体となって人材育成を行うことが重視されています。あうるすぽっとのインターンシップ・プログラムもまさにこのような人材育成の趣旨にそったものといえます。8名という過去最大人数で取り組んだ昨年度とは対照的に、今年度は最終的には3名という少数精鋭での取り組みとなりましたが、それぞれのインターン生が、あうるすぽっとでの様々な経験を将来に活かしていくことを願っています。インターン生がすぐに劇場に勤務するわけではないかもしれませんが、公共劇場というものが社会の中で果たす役割をきちんと認識した市民が、社会の様々な場所で活躍することが、我が国における劇場及び社会の発展にとってきわめて重要です。インターン修了生の皆さんにはそのような役割を期待したいと思います。

片山泰輔

平成 25 年度

アートマネジメント研修事業報告書

発行日 2014 年 3 月 31 日

発行人 公益財団法人としま未来文化財団

あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 4-5-2 ライズアリーナビル 2・3 階

TEL 03-5391-0751 <http://owlspot.jp>

編集 あうるすぽっとアートマネジメント研修生

監修 片山泰輔

© 2014 OWLSPOT



あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)

公益財団法人としま未来文化財団